

早見純一編纂

中等地理教科書

本邦
之部



東京

大日本圖書株式會社

凡 例

一本書は中學校及び之と同等なる諸學校の日本地理教科用に充つるが爲め、編纂せしものにして、其活字、用紙、舩裁等は總て文部省の規定に據り調成したり

一本書記載の種目は大畧中學校教科細目の規定に據り編纂したるも、地方誌に於て各府縣記載の順序を異にせしは、附屬地圖對照上の便利と、彼是密接の關係ある府縣を順次列記せしとの理由より生ぜしものにして、編者は教習上却て便利ならんと信ずるものなり

一本書は各府縣廳所在地を以て中心點と定め、國道若しくは鐵道線路に依り、其府縣内の著名なる都邑、山川等を使

宜掲出することゝせり。故に彼是對照せば自から相連絡し、全國を通じて記載せる旅行體のものど等しき結果を生ずべし

一本書は大小二體の文字を以て記載せり、大字は生徒の記、臆すべき事實を掲出せる本文にして、小字は教授の際參考として講話すべき資料を摘録せる註解なり

一本書に記載する地名は極めて平易なるものと、再出せるものどを除き、總て左側に傍訓を附し、特異の讀方を解するに便ならしめたり

一本書は左の符號を右側に附せり

地名

人名

◎◎◎ 表目

●●●● 交通路、鐵道線、物産、社寺等の名稱にして、殊に

注意を要すべきもの

一本書に記載する數量は最近の統計年鑑若くは各府縣地誌等確實なる參考書に據れり

一本書に屬する地圖は便利の爲め附圖として別冊に綴り、帝國大圖(位置、境界、沿岸、山水系を指示す)、氣候圖、國名圖、交通圖、及び帝國切斷圖(都合七葉)を添えたり。切斷圖は其の大きさは彼是相等しく、且つ對照の便宜上、國縣名の二葉に跨がらざらんことを企圖して調整したり

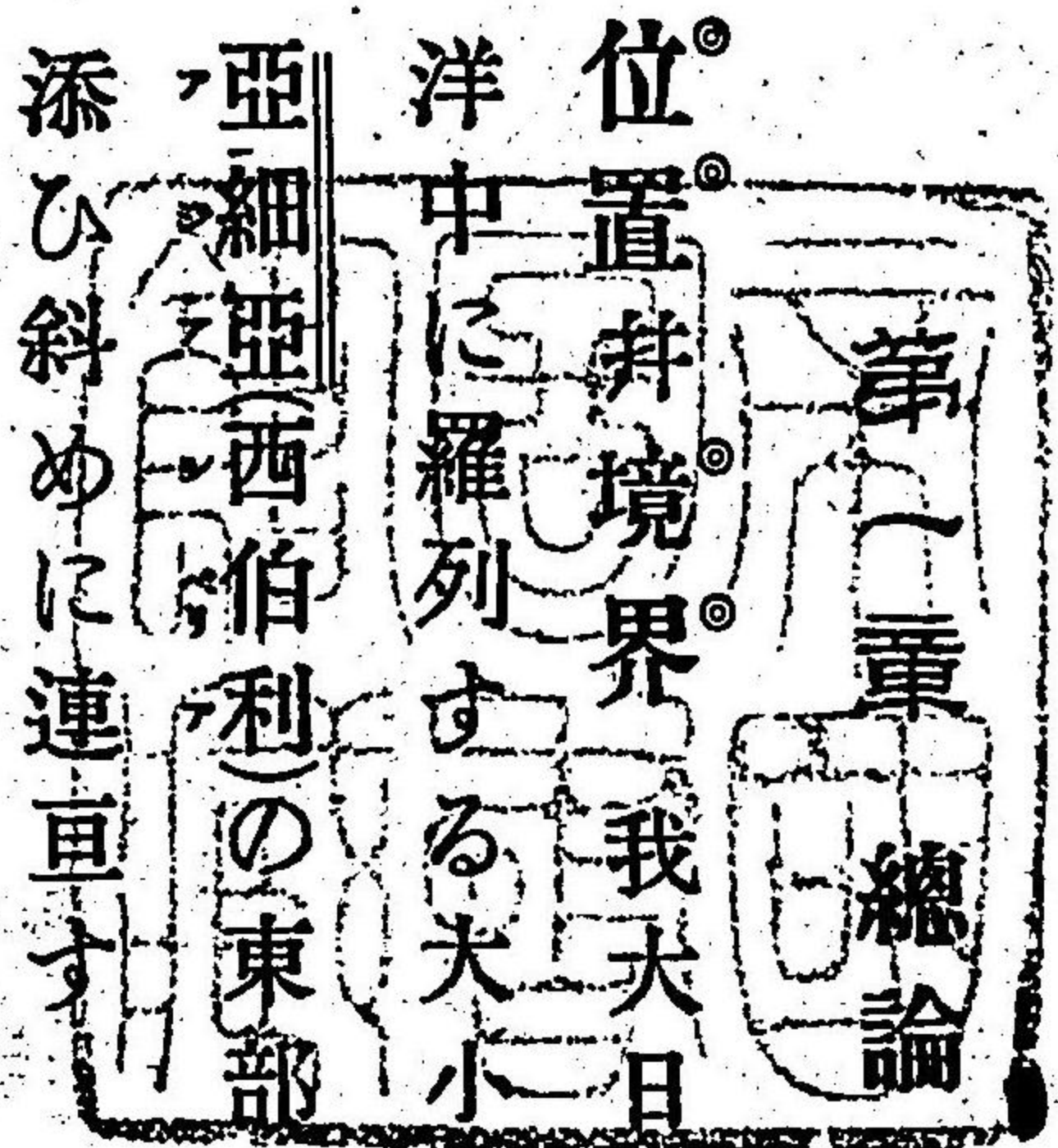
一本書の挿畫は風景圖と物産圖とを併寫せり。是れ其地の風景を知ると同時に物産の大要を窺はしめんと欲せしなり。圖中の物産は其風景ある地方の前後數縣に跨がるものなれば、其時々教師諸君の説明せられんことを希望す

明治三十二年八月

編者 識

中等地理教科書 本邦の部

早見純一編



位置并境界 我大日本帝國は亞細亞洲の絶東なる北大平洋中に羅列する大小許多の島嶼にして、支那朝鮮及魯領亞細亞(西伯利)の東部に位し、東北より西南に向ひて大陸に添ひ斜めに連亘す

帝國の北端は北緯五十度五十六分(千島列島中阿頼度島の北端にして、其南端は北緯二十一度五十四分(臺灣の南端なる南岬)なり、又其東西は東緯百十九度二十分(澎湖群島中化嶼の西端)より起り東經百五十六度三十二分

分千島列島中占守島の東端に終る。即ち緯度二十九度二分、經度三十七度十二分の間に跨れり。而して此一帶の列島は整然羅列し自から三連の弓形を爲し宛も寶珠を連ねて彎曲せるもの、如く。且つ之に加ふるに風光の美と氣候の和とを以てす。彼西人か花彩列島と呼び東洋の花園と稱するもの亦偶然にあらず

此諸島嶼中最も大なるものは本州、北州、四國、九州、臺灣の五島にして之に次ぐものは佐渡、隱岐、淡路、對馬、壹岐等の諸島なり。此他千島列島、豆南七島、小笠原群島、琉球諸島、澎湖群島等を合すれば其數無慮六百〇五島あり。又周圍一里以下の小島をも合算すれば總數五千に近しと云ふ

諸島嶼中最北に位し點々連珠の如く弓形に彎曲せるは千島列島なり。其西南に位し赤鯉の南方に尾を振ふが如き狀を爲すものは北州なり。北州

の南に位し守宮の北に向て匍匐するが如き狀を爲すものは本州にして。其周圍には佐渡、隱岐、淡路、豆南七島、小笠原群島等碁布羅列せり。本州の西南に位し猿猴の手の舞、足の踏む所を知らず雀躍するが如き狀を爲すものは九州なり。本州と九州の間に包まれ蝙蝠の羽翼を張り翺翔するが如き狀を爲すものは四國なり。九州の西南に方り或は集まり或は散じ雁行の伏兵に遇て亂れたるが如きものは琉球諸島なり。其西南に位し土龍の日光に射られ窘蹙するが如き狀を爲すものは臺灣にして。其西方に碁布する島嶼は即ち澎湖群島なり

本邦は四面皆な渺茫たる海洋にして一も土壤を以て隣國と相接せず。我東南は世界最大の太平洋にして東方は遙かに北亞米加洲に對し南方は比律賓群島に面す。又我北方は煙霧多き阿可都科海を隔て、魯領亞細亞を臨み。北西は日

本海、黄海及び東海に限られて支那、朝鮮、魯領亞細亞に接す

本邦が隣國と近接せる所を擧ぐれば、北方に於て北州の北端なる宗谷岬は宗谷海峽を隔て、魯領亞細亞の沿海州に屬する一大島薩哈連又樺太と稱し、舊時我邦と魯國との間に分領せし地なりしが、今より二十餘年前兩國協商の結果千島列島と交換し同島は全く魯國の專有に歸せり。南端と相對し、千島列島の北端占守島は千島海峽又久里留海峽と稱すを隔て、同じく沿海州中の東塞加半島と面す。又西方に於て九州の西北に位する對馬島は朝鮮海峽を隔て、朝鮮の東南端慶尙道と相對す。更に南して澎湖群島は臺灣海峽を隔て、西方支那の福建省と面し。又臺灣の南端なる南岬はバシー海峽を隔て、比律賓群島と相對す。

廣袤 本邦は東北より西南に延長する數多の列島なるを以て、此方向に延長すること大約一千二百五十里なるも、其

幅に至りては一百里を超ゆるの地なし。故に其面積は延長の大なるに比して大ならず。即ち二万七千〇六十二方里(大約十六万二千八百方哩)にして、世界陸面の凡そ三百二十分の一に過ぎず。

今本邦の面積を諸外國に比すれば、大約支那は二十六倍、朝鮮は二分の一、英國(諸屬地を合し)は五十七倍、魯國は五十三倍、北米合衆國は二十二倍、佛獨兩國は共に一倍四分の一に當れり。又我各地の面積周圍等を細別すれば左の如し。

地名	周圍(里)	面積(方里)	百分比例
本州(屬島百六十六)	二、四七五	一四、五七一	五三、八四
北州(全十二)	六二九	五、〇六二	一八、七〇
九州(全百五十)	一、八四七	二、六一七	九、六七
臺灣(全二十九)	三五二	二、二六〇	八、三五

四國(全七十五)	六七六	一、一八一	四、三六
千島(三十二島)	六一三	一、〇三三	三、八二
琉球(五十五島)	三一五	一五七	〇、五八
佐渡	五三	五六	〇、二一
對馬(屬島五)	二〇六	四五	〇、一七
淡路(全一)	四一	三七	〇、一四
隱岐(全一)	七六	二二	〇、〇八
壹岐(全一)	三七	九	〇、〇三
澎湖島(四十七島)	七五	八	〇、〇三
小笠原及硫黃島(廿三島)	七二	四	〇、〇二
總計	七、四六七	二七、〇六二	一〇〇、〇〇

六

以上諸島の中本州四國九州佐渡隱岐淡路壹岐對馬の八島は本邦開闢以來の舊地なるを以て古に大八洲島國と稱せり其他諸島は皆な近代の合併に依り我領土に入れるものなり殊に臺灣及び澎湖島は彼の日清の役

光榮ある戦勝の結果として我版圖に加はりしものなり

又以上列記の諸島を相互比較せば本州と北州とは三と一に當り九州若くは臺灣と北州とは一と二に當り四國の四倍は北州と略ほ相似たり又千島は北州の九分の二琉球は千島の七分の一に近しと知るべし

沿岸[◎] 本邦の沿岸は屈曲出入甚だ多く海岸線の延長無慮七千四百六十七里に及べり之を全國の面積に比すれば大約一に對する三、六二の割合なり其面積に比し此の如く最長の海岸線を有するもの世界各國其類なし啻に此點より觀るも本邦は物貨集散の門戶たる内海港灣に富み水路交通の便頗る多く文明的新原素を輸入するには最も好良の位置を占めたり

本邦は地勢甚だ峻險なるを以て四周の海洋概して深し我東南面たる大

七

平洋中千島列島の東南數百哩の海洋は四千乃至五千尋の深さを有せり。此部面は所謂タスカロラ海床と稱するものにて現時世人の知悉する世界最深の底床なるも他の大平洋部面は總て四千尋以内なり。又日本海に於ける最深所は對岸なる魯領亞細亞に接近せる邊に在りて大約一千二百尋あり。其他東海、阿可都科海の如き瀬戸内海の如き概して千尋以内の深さなり。其内最も淺き部分を擧ぐれば朝鮮海峡にして、其深さは十尋に過ぐる所なしと云ふ

此の如く本邦の沿岸は屈曲出入甚だ多ければ従て港灣海峡、岬角、島嶼、半島の類に乏しからず。今其梗概を順次に記載すれば千島と北州の間に根室海峡あり。襟裳、宗谷の二岬は北州の南北に張れる兩翼の端を爲し。其南端半島形を爲す所は即ち渡島半島にして渡島半島の頸部たる兩側に火

山又噴火灣とも内浦とも稱す小樽の兩灣あり。又禮文、利尻、奥尻等の諸島は其西部に散在する島嶼なり

以上記載する外恵山岬、白神崎、神威岬、知床岬、納沙布岬等は顯著なる岬角にして、根室灣、厚岸灣、積丹半島、知床半島等も亦知名なるものなり

北州と本州の間に津輕海峡あり。此海峡に突出する津輕、下北、斗南二半島は其間に陸奥灣を抱く。下北半島の尻矢崎より南方利根河口の犬吠岬に至るの沿岸は本州北部の東海岸にして。北方は、出入犬牙の如き斷崖にして南方は平坦糸線の如き沙濱なり。此間牡鹿半島の仙臺灣を擁するあり

陸奥灣は更に分れて青森野邊地の二灣を爲せり。又大間岬は本州の最北端にして、閉伊崎は其最東端なり。又常陸の海岸弓形を爲す所を稱して鹿

島洋と云ふ

犬吠岬より西南紀伊の沙岬に至るまでは本州中部の南岸にして東京灣、相模灣、駿河灣、伊勢海の四大海灣、房總、伊豆、志摩の三半島あり。相模灣より南方に點々碁布する諸島嶼は豆南七島、小笠原群島、硫黄島とす。又野島崎、石廊崎、御前崎等は此間に於ける著明なる岬角にして、御前崎より志摩半島に至る外洋を遠洲洋、遠江洋と云ふ。同半島より沙岬に至る間を熊野洋と云ふ。

相模の南端三浦半島の觀音崎と房總半島の富津崎とは東西相對して東京灣口を扼する要害たるを以て有名なり。又三河の渥美半島と志摩半島と相對し外洋と伊勢海とを限り、尾張の知多半島は伊勢海より渥美灣を分畫せり。此二半島の岬角なる伊良湖崎、師崎は志摩半島の大王崎と共に鼎足の勢を爲せり。

沙岬の西方海を隔てたる岬角を室戸崎と稱す。室戸崎は其西南なる蹉陀岬(足摺岬)と相擁して土佐灣を形成す。沙岬より海岸一轉して北に傾むき又西に屈曲する狹長なる海を瀬戸内海と稱す。本州の西部と四國及九州との間に包まれたり。此内海の外洋と接する所に三海峽あり。一は東南に在り紀伊水道と稱し、二は西南に在り豊後水道(豊豫海峽)又早吸海峽と稱し、三は西方に在り馬關海峽(關門海峽)又早瀬海峽と稱す。海中別に一大灣を爲す之を大阪灣(茅渚の海)と云ふ。大阪灣外一大島あり之を淡路と云ふ。此他無數の島嶼海中に散點羅列し實に本邦の群島海なり。

紀伊と淡路との間を由良海峽と稱し、淡路と阿波の間を鳴戸海峽と呼び、淡路と攝津との間を明石海峽と云ふ。明石海峽より馬關海峽に至る内海

は北面に播磨洋、兒島半島、水島洋、備後洋、燧洋、廣島灣、周防洋等あり南面には讃岐半島、伊豫灣、高細半島、佐多岬等あり沿岸屈曲甚しく且無數の島嶼ありて航海者をして指顧應接に遑まあらざらしむ。今其海中に散在する主なる島嶼を擧ぐれば家島(播磨)、小豆島(讃岐)、鹽飽島(全上)、鹿久井島(備前)、神島(備中)、倉橋島(安藝)、能美島(全上)、巖島(全上)、大島、又屋代島と云ふ周防にあり。平群島(周防)、弓削島(伊豫)、伯方島(全上)、興居島(全上)等なり。

九州の沿岸は本邦中最も屈曲出入に富めるを以て其面積に比し最大なる海岸線を有せり。其正北岸なる馬關海峽より南方大隅の佐多岬に至る東岸地方は國東半島の突出せる別府灣、臼杵灣の如き灣入なきにあらざるも、日向洋の沿岸は屈曲甚だ少なし。佐多岬と開聞岬とは大隅、薩摩二半島の南端なる海角にして兩半島の間細長なる鹿兒島灣を

抱けり。其中央なる櫻島、及び佐多岬の南方洋中の種子島、屋

久島、奄美群島、寶七島、琉球諸島等九州南部の諸島なり。

奄美群島は大島其中央に位し周圍に喜界島、徳の島、與倫島等の諸島あり。寶七島は口の島、中の島、諏訪瀬島、平島、臥蛇島、惡石島、寶島の七島にして、琉球諸島は其南西に散點し自から三個の群島に區分せらる。即ち沖繩群島、宮古列島、八重山群島是なり。

薩摩半島の西南野間岬より肥前半島の北部に達する間は九州中屈曲出入最も錯綜せる海岸なり。肥後の西方に上島、下島等の天草諸島あり。肥前半島と共に灣口を包んで筑紫海(有明の海)を形成す。此諸島の外洋は彼の有名なる天草洋なり。又肥前半島は更に分裂して島原、彼杵の二半島となり。彼杵半島は北に延び東に大村灣(鯛の浦)を控ふ而して其西

方洋中に散在するは所謂五島列島なり

筑紫海は宇戸半島に限られて別に八代灣を形成す八代灣の南口は黒瀬

戸にして筑紫海の西口は早崎海峽なり又肥前半島の西北部は北松浦東

松浦二半島を分岐し伊万里灣を擁す北松浦半島は平戸の瀬戸なる一葦

帶水を隔て、平戸島に對す又薩摩半島の西方海中なる島嶼は甌島なり

肥前半島の北部より遙に海上を望めは壹岐島あり同島よ

り西北對馬海峽を隔て、朝鮮の南部と相對する對馬あり

又壹岐の東方は有名なる玄海洋にして此南方肥前筑前の

沿岸に二小灣あり博多灣唐津灣是れなり共に九州北部の

要津なり

馬關海峽より北方響灘に出づれば日本海の沿岸なり此沿

岸は平坦にして屈曲少なく東北若狹灣に達するまで島根

半島の突出すると丹後半島の若狹灣を擁するとあるのみ

にして出雲の北方海中に隱岐の諸島あり若狹灣より尙ほ

東北に進めば能登半島北方に突出し富山灣又越中灣と云

ふを控ふ此より東北陸奥の龍飛岬に至るまで男鹿の一小

半島あるのみにして海岸一帯線糸を引くが如く著名なる

岬角海灣なし又海中にも惟一の佐渡島あるのみにして他

は皆な列擧するに足らず

長門の沿岸には彦島六連島青海島見島等の小嶼あるも山陰道諸國の沿

岸には隱岐島の外列擧すべきものなし又島根半島の東に延びたる岬角

は地藏崎と稱し伯耆の西端より突出せる夜見ヶ濱なる砂嘴と相對して

中の海を包めり又若狹灣は稍や犬牙錯綜し灣中に敦賀小濱舞鶴宮津の

小灣を形成し船舶寄泊の要津を爲せり

臺灣の海岸は屈曲出入甚だ少なく東岸は一帶の懸崖絶壁なるも西岸は平遠なる沙汀なり。北端に**正門岬**あり其東西に**基隆****淡水**の二小灣を控ふ共に北部の要津なり。又其東北端には**北斗岬****三貂角**あり其南端の**南岬**及び**南西岬**は蝸牛の角の如く南方に突出し其間に**南灣**を抱けり。此他東岸に**蘇澳灣**西岸に**打狗灣**等あるも之を本州及び九州に比すれば細小記するに足るものなし。而して同島南部の西方に散在する一群島は即ち**澎湖群島**なり

澎湖群島は大小四十七島にして其最も著名なるものは澎湖漁翁白沙の三島とす。此三島は共に相擁して澎湖灣を形成せり

地勢 本邦の地勢は西南より東北に向ひて三連の弓形を

成し彎曲す。是れ其地體を構成する二大山系の方向に依り生ずるものなり。一は**支那山系**(又日本南彎と稱す)にして一は**樺太山系**(又日本北彎と稱す)なり。此兩山系の相會する所は本州の中點にして地勢最も高峻なる**甲信**地方とす。此他**富士****霧島****千島**の三火山脈ありて國中到る所峻嶺奇峯鬱然として重疊し只其沿海に向ひて傾斜する海岸に沿ひ狭少なる平原を有するのみ。而して其最も大なるものは**利根川**の蜿蜒貫流する**關東平原**とす

山系 本邦の山系は遠く**支那大陸**より其脈を延き九州の西部より本邦に入り分れて**中國****四國**に蟠踞し遂に數條の山脈と成り本州の中央部に達する**支那山系**と**樺太島**より

北州に入り、一たび陥没して本州の東北に現出し纏綿連續
 進んで中央部に達する樺太山系との二なり。此二山系の外
 地體の弱點に一條の裂罅を生じ地下熱を噴出し數條の火
 山脈を形成せり。此火山脈は二山系に屬する數多の山脈と
 錯綜し或は並走し或は縦貫し以て本邦の地體を構造せり
 本邦の火山脈は富士、霧島、千島の三大火山脈の外、中央、岩木、
 彌彥、白山、阿蘇等の小火山脈あり。此等火山脈は地體の弱點
 に噴出し各一方に割據し活動の勢を逞ふし本邦をして世
 界有數の火山國たらしむ

本邦に於ける火山の數は總計百七十二座活火山三十七座消火山百三十
 五座あり。之れを大別すれば本州及伊豆諸島に八十七座活火山二十座消

火山七十七座北州千島に四十六座活火山八座消火山三十八座九州及其
 屬島に二十六座活火山九座消火山十七座四國に三座消火山三座の配合
 なり。之を全地球上に散在する火山の概數なりと稱する六百七十二座に
 比すれば殆んど四分の一の多きに達せり。是れ本邦の地體構造の然らし
 むる所にして亦我特性として算すべきもの一なり。本邦が秀嶺奇峯に
 富み山水絶佳人をして奇絶妙絶を呼ばしむるもの亦火山の影響に歸す
 べきもの甚だ夥多なりとす

樺太、支那二山系に屬する本邦主要の山脈は即ち左の如し

樺太山系に屬するもの

蝦夷山脈 北上山脈 阿武隈山脈 關東山脈 千島火山

脈 中央火山脈 岩木火山脈 彌彥火山脈

支那山系に屬するもの

九州山脈 四國山脈 紀伊山脈 赤石山脈 中國山脈
霧島火山脈 阿蘇火山脈 白山火山脈 御嶽火山脈

兩山系の接合點に在るもの

富士火山脈

兩山系に跨がり日本海岸に在るもの

能登火山脈

以上諸山脈の外アイヌ帝釋山脈、房總山脈、木曾山脈、笠置山脈、葛城山脈、等の名稱ありて數多の小山脈縦横に錯綜するが如しと雖とも是れ皆本文に記載する十八山脈の支脈たるに外ならず

北州に於ては蝦夷山脈遙に樺太より其脈を延き宗谷岬より斜に襟裳岬に貫通し。千島火山脈は遠く東塞加に起り千島列島を経て知床岬より北州に入り其中央に於て蝦夷山

脈と交叉す。此他室蘭近傍より西北に走る小火山脈と、惠山岬より西北に走る小火山脈とあり

蝦夷山脈は日高、東北の二山脈より成る。西北日高、十勝兩國の境界を爲せるものを日高山脈と稱し、中央千島火山脈に遮斷せられて後ち再び南に現はれ北見、天鹽兩國の中間に連續するものを東北山脈と云ふ。宗谷、岳、天鹽、岳、夕張、岳等此山脈に屬せり

千島火山脈は東塞加半島より千島海峽を経て連續千島列島を形成し知床岬より北州に入り、良牛山、斜里岳、硫黃山、根室、雄阿寒岳、雌阿寒岳、釧路、石狩、岳、石狩、十勝、岳、十勝、等を起し其中央に達するものを云ふ

又室蘭近傍より西北に走る小火山脈一に後方羊蹄山彙と云ふは樽前、有珠、勝振の諸火山を起し、惠山岬より西北に走る小火山脈一に渡島山系の東派と云ふは惠山、駒ヶ岳、渡島等を起す此兩火山脈の間に挟まれる海灣は其沿岸に此諸火山を有するを以て火山灣の名を得たり

本州北部の山脈も亦樺太山系に屬するものにして其東海岸に沿ふて北上阿武隈二山脈あり中央に於て中央分水山脈關東山脈等あり其西には岩木火山脈あり再び西して北海岸に彌彦火山脈あり

北上山脈は陸奥の馬淵河口の南より起り東海岸に沿へ南に走り遂に牡鹿半島となり有名なる金華山キンカワサン陸前に至り斷絶すミカミ姫神山ヒメカミヤマ早池峯イハヤチノミネ陸中等の諸山之に屬す

阿武隈山脈は阿武隈河口の南に起り磐城の中央部を南に走りミヤコ靈山レイサン大瀧オホタキ根山ネヤマ關ツル伽ガ井イ岳タケ等を起し常陸の境に至り八溝山ヤチノミとなり尙ほ南して加波山カハサン筑波山ツクバサンとなり霞浦カスミガハラの北岸に終るものを云ふ

中央分水山脈は下北半島の恐山オウレヤマに起り進んで八甲田山ヤチノミ陸奥となり陸羽の境を南走し森吉山モリキヤマ羽後岩手山イハテヤマ陸中栗駒山クリコマ陸前等を起して岩代に入り

山勢愈々峻險を加へ有名なる吾妻ウゼ磐梯イハタテの兩山となる此山脈下野岩代の境に至り那須岳ナスダケを起し是より西折し帝釋山テシヤクサンとなり赤安山アカヤシロ燧岳ヒノコ等を起し岩木火山脈の南部と結合す又此山脈は別に一支脈を南方に發し日光山ニツクラヤマ彙ウヘとなり日光ニツクラ白根シラネ下野ゲノの兩高山を起し西南に走り上野ウエノを縦貫し赤城アカギ榛名ハシナの諸山となり遂に富士火山脈に接す

關東山脈は別に獨立の山彙を爲し武藏相模の西境に蟠幄し武甲ブカウ三峰ミツミネ甲武信ウチノブ國司クニジ御嶽ミツタケ丹澤ニシキ大山の諸山を爲す又此近傍に三浦半島房總半島の地帯たる小山脈あり

岩木火山脈イハキ西岸火山脈セイアン羽越火山脈ハコエ鳥海火山脈等トウカイの名稱ありは陸奥の岩木山より起り中央分水山脈と並行し鳥海山トウカイ羽後ハコエ月山ツキヤマ羽前ハコエの諸山となり越後の境に至り朝日岳アサヒ飯豊山イヒトヨを起し更に轉して帝釋山脈と結合し尙ほ南進し上野越後の境を經白根シラネ四阿シヤア淺間アサマの諸山となり富士火山脈に連る彌彦火山脈ヤヒコ又寒風山火山脈サムイと稱すは羽後の男鹿半島の寒風山サムイに起り一

たゞ海中に没して飛鳥、栗生島となり更に越後の中央海岸に現はれ彌彦山を起し尙ほ南進して米山、黒姫山となり妙高山、焼山に連れり

本州の中央支那、樺太二山系の接合する所を南北に縦貫する富士火山脈あり。此脈は地理學上本邦を南北に分割する主要の大火山脈なり

富士火山脈は遠く其脈を南洋諸島より延き硫黄島、小笠原島、豆南諸島を経て伊豆半島に入り天城、函根の諸山を起し更に進んで東海の大嶺たる富士の靈峯を崛起し愈々北走して八ヶ岳、甲斐、戸隠山、信濃、妙高山、越後、焼山(全上)に至る

本州南部の山脈は支那山系に屬するものにして南岸紀伊半島に於て紀伊山脈を爲し進んで富士火山脈の西に於て赤石山脈を爲す。又中央に御嶽火山脈、西部に中國山脈あり。

此他日本海に面する地方に白山火山脈、能登火山脈の二脈あり

紀伊山脈は支那山系の一部にして四國より紀伊水道を渡り本州に入るものにして専ら紀伊、大和、伊勢の境上に蟠踞するものにして高野山、那智山(紀伊)、彌山、山上ヶ嶽、大台、原山(大和)等之に屬す

赤石山脈は紀伊山脈の伊勢の海に沈めるもの再び三河の渥美半島に現出し遠江に入り秋葉山となり更に進んで駿遠の境に至り益々峻險を加へ赤石、白嶺の諸山を起し、又別に一支脈を出し七面、身延の諸山となる。又其西方に並行して木蘇山脈あり、惠那山、駒ヶ岳、信濃等之に屬す

御嶽火山脈(立山火山脈)、又飛驒山脈と稱すは信飛の境上に起り御嶽、乗鞍、鎗ヶ嶽等の高山となり尙ほ北走して越中の境に入り有名の立山を起し北陸の雄鎮を爲す

中國山脈は支那山系の一支脈九州より馬關海峽を経て長門に入り石見の國境に於て徳佐山を起し山陰山陽二道の境上を東走し之か分水界を爲し、數多の三國山、蛭山、伯作の境等を起し畿内の地に入り比叡愛宕山城等の諸山となり琵琶湖北を経て濃飛高原に達す

畿内の地に笠置山脈、葛城山脈等の小山脈あり笠置山脈は大和の北部に在るものにして葛城山脈は大和、河内の境界を爲すものなり。前者に笠置山あり後者に葛城、金剛、生駒の諸山あるも山勢概して峻險ならず

白山火山脈は加賀の白山に起り青葉山、若狹、大山、伯耆、三瓶山、雲石の境、青野山、石見に至るものを云ふ

能登火山脈(又日本海火山脈と稱す)は佐渡の金北山に始まり能登半島に入り寶立山脈を起し、更に西して日本海中の隱岐、壹岐を経て平戸島、五島列島に達する火山脈にして屢々日本海中に出沒す

四國の山脈は支那山系の一派に屬するものにして伊豫よ

り中央を東西に貫通する四國山脈と、其北部に在りて之と并行的阿蘇火山脈との二脈あり

四國山脈は九州より豊後水道を経て四國に入るものにして伊豫の吉森山に起り伊豫、土佐の境を走り兩國の分水界を爲し、阿波の中央に至り有名なる劔山となり尙ほ東して遂に海に沒す

四國に於ける阿蘇火山脈は肥後の阿蘇山より其脈を延き伊豫の高細半島に入り高細山となり、東して四國第一の高山、石槌山(伊豫)を起し尙ほ東走して讚岐に入り飯野山等を起して海に沒す

九州の山脈も亦支那山系に屬するものにして南部諸州に重疊する九州南部山脈と、北部諸州に斷續する九州北部山脈とあり其他霧島、阿蘇の二火山脈も亦州内各所に蟠岬せり

九州南部山脈は薩摩の北部に起り日肥兩國の間を東北に走り豊後の東南部に入り市房山肥後日向の境江代山全上祖母岳日向豊後の境等之に屬す

九州北部山脈は肥筑豊の北部に連綿たるも山勢高峻ならず南部山脈に比すれば遙かに低し雷山筑前肥前の境寶満山筑前福智山豊前等之に屬す

霧島火山脈は遠く琉球諸島より來り薩摩の南端に入り開聞岳となり、一たび鹿兒島灣に没し櫻島を起し更に九州に入り高千穂岳霧島山日向大隅の境となり轉じて八代灣を超へ温泉岳多良岳等に連なる

阿蘇火山脈は肥後の東北部に於て一山彙を爲す之を阿蘇山と爲す此脈延て九重山英彦山由布岳豊後となり國東半島の兩子山を起し遂に海に没し四國の火山脈に連なる

臺灣の中央を南北に走り同島の脊骨たるものは玉山山系

にして別に同島の北部に大屯山彙なる火山脈あり

玉山山系は本島の中央を東方に偏して走り全島を貫通し高峻なる大鍵鎖を爲し本邦第一の高山なる新高山玉山又モリソン山と稱すを始めとし卑南圭山畢綠山頭圍山等の高山各所に割據す又大屯山彙は臺北の北に在り大屯山其盟主たり

水系 本邦の地形は狹長にして地勢急峻中央に大脊梁を爲せば水流概して南北に分注し奔湍急流多し故に河道屈折するも長大なる水流なければ従つて舟運の便少なし然れども下流に於て漑灌の利あるもの亦少なからず本邦の河流中三大河と稱するものは石狩河信濃河利根河にして三急流と稱するものは富士川最上川球摩川なり

石狩河は源を北州の中央なる石狩岳に發し雨龍川空知川等の大支流を

合せ石狩の平野に蜿蜒し遂に石狩港に注ぐ其流程百六十七里實に本邦第一の長流なり

信濃河は源を甲信の境に發し千曲川の名を以て信濃の東邊を流れ西より來る犀川を合せ越後を貫流し新潟の東に於て海に入る流程一百里本州第一の長流なり

利根河は源を上野の北境に發し吾妻川、烏川、渡良瀬川等を合せ武藏下總の界に於て一支流(江戸川)を分ち本流は鬼怒川、小貝川を合せ印幡手賀二沼の水を納れ常陸の霞浦に入り銚子港の東に於て海に入る流程七十一里三大河中最も短かしと雖ども其貫流する所關東平野なるを以て灌域甚だ廣大なるのみならず本州の中央繁盛なる地域に位するを以て最も世人に知らるゝ大河なり故に俗に坂東太郎と呼ばれ筑後の筑後川(九州次郎)阿波の吉野川(四國三郎)と并稱せらる

富士川は甲斐の北境に發し富士峯の西側を下り駿河を貫流し駿河灣に入る

入る

最上川は羽前の南境に發し同國を貫流し酒田港の東側に於て海に入る 球摩川は肥後の東南境に發し同國の南方を貫流し八代灣に入る

東海道中の五大川と稱するものは利根河、富士川、大井川、天龍川、木曾川、是れなり。此他多摩川、相模川、安倍川、矢矧川、宮川等も亦有名なる河流なり

大井川は流程甚だ長からざるも古昔より急流として稱せられ天龍川は源を信濃の諏訪湖に發し亦一急流にして東海道中の長流なり。木曾川は尾濃平原の間に蜿蜒し灌域甚だ廣濶なり。又多摩川は下流を六郷川と稱す帝都の近傍に在るを以て有名なり。相模川(一に馬入川と云ふ)安倍川、矢矧川も亦東海道の名流なり。宮川は伊勢大廟の近傍を流るゝを以て世に知らる

關東の河流は利根川を以て其霸王とし荒川、鬼怒川、那珂川等ありて各一方に割據し灌漑舟楫の便を爲せり

荒川は源を武蔵の西北隅に發し帝都の中央を貫流し東京灣に入る、其下流に於て隅田川、宮戸川、大川等の別名あり。鬼怒川は源を日光山麓に發し下野、下總二國を貫流し利根川に合し、那珂川は下野に發し常陸に入り、水戸市を貫ぬきて海に入る

奥羽の三大川と稱するものは北上川、阿武隈川、最上川是なり。此他御物川、能代川、岩木川等の巨流あり

北上川は中央分水山脈に發し陸中を南流し仙臺灣に入り、阿武隈川は磐城の南部に發源し岩代に入り東北流するものなり。御物川、能代川は共に羽後國內を西流し有用なる河流と稱せらる。岩木川は陸奥を南北に貫通するものにして本州の北隅に覇を稱す

北陸道の七大川と稱するものは信濃川、神通川、射水川、黒部川、常願寺川、九頭龍川、手取川等なるも此他阿賀川、足羽川の如き亦巨流なり

神通川、射水川は共に源を飛驒に發し北流して越中を貫流し富山灣に入るものにして、黒部川、常願寺川亦越中に在り共に急流を以て稱せらる。手取川は加賀の南部に發源し同國を貫流し、九頭龍川、足羽川は共に越前に在り下流にて合して日野川となり日本海に入る。阿賀川は岩代國內の諸流相合して一巨流となり越後を貫流するものなり

琵琶湖以南幾内及び紀伊半島の地に於ては其大なるものは淀川、紀の川、熊野川にして之に次ぐものは大和川、有田川、日高川等なり

淀川は上流を瀬多川と稱し次に宇治川と爲り後ち淀川と稱するものなり

り流域長からずと雖も源を琵琶湖に發するを以て河水注々舟楫の便甚だ多し。大和川は源を大和に發し河泉二國を貫流し大阪灣に入る。紀の川熊野川は共に大和の南部、山巒の鬱結する地方に發し上流を前者は吉野川と稱し後者は十津川と稱す同しく紀伊に入り遂に海に入る。有田川、日高川亦紀伊半島に在るものにして共に西流し紀伊水道に入る。

山陽、山陰の地方は本州中幅員最も狭き地方にして且つ其中央に中國山系連亘するを以て諸川概ね南北に分流し其の流域甚だ長からず。獨り江の川のみ其南部に發源し北部を貫流するを以て中國第一の大河たるを得。其他稍や大なるものは南流するものに吉井川、旭川、川邊川あり北流するものに由良川、千代川、日野川、簸の川あり。

江の川は源を備後に發し北流石見に入り日本海に注ぐものにして吉井

川、旭川は共に美作より備前に入り其位置よりして東大川、西大川と稱するものなり。又川邊川は備中國内を流るものにて一に大川と稱す。

由良川は丹波より丹後に入り千代川は一名加露川と稱し因幡に在り。又

日野川は伯耆に簸の川は出雲に在りて共に山陰に於て有名なり。

四國は域内廣からざれば従つて河流の大なるもの少なし其最も大なるものは阿波の吉野川にして仁淀川、渡川、肱川之に次げり。

吉野川は俗に四國三郎と稱するものにして阿波を貫ぬき東流して海に

注ぐ。仁淀川、渡川(一名四方十川)は共に土佐にありて南流し、肱川は伊豫の

西部を西流す。

九州は地勢甚だ錯雜なるを以て河流の各方面に向ふもの少なからず。而して其最も大なるものを筑後川、球摩川、川内

川とし之を九州の三大河と稱す

筑後川は俗に筑紫次郎と稱するものにて源を豊後の山中に發し筑後を貫流し筑紫海に入るものなり。又川内川は薩摩の北部を西流し長さ四十六里九州第一の長流なり

北州は山系東西又南北に貫通し其中央に於て交叉するを以て其地形本州の如く狹長ならざれば河流の大なるもの甚だ多し。而して其最も大なるものは石狩川にして實に本邦第一の大河なり。之に次ぐものは天鹽、十勝、後志、釧路の四川とす

天鹽川は源を天鹽岳テニシダケに發し西北に流れ、十勝川は十勝の西北山巒蟠踞する所に發し國內の河流を合せて東流す。又後志川は西南地頸部に在り、後志國內を貫流するものにして、釧路川は源を釧路湖に發し東南流し海に

朝するものなり

臺灣は全島を南北に貫流する大山脈あるを以て自然大河を爲す能はず。稍や其大なるものを擧ぐれば淡水河、大吐溪、濁水溪、下淡水溪等あるのみ

淡水河は其北部を北流するものにして臺北滬尾街淡水港等其河邊に在り。大吐溪、濁水溪は共に其中部に在りて西流し下淡水溪は南部を南流し其河口に東港あり

海流 本邦の沿海は暖寒二流の要衝に在るを以て四面皆海流の洗ふ所たり。故に本邦は氣候の調和を得ること甚だ多しとす。本邦の暖流は赤道地方より來り臺灣の東方を北流する日本海流なり。此海流は沖繩諸島の北方に於て分れて本支二流となり。其本流は九州、四國、本州の南岸を東流し

豆南七島の間を横過し尙ほ進んで東北に流れ遂に我沿岸を離れて北太平洋に入る。之を黒潮又黒瀨川と云ふ

此海流を黒潮と云ひ黒瀨川と稱するものは海水深藍色を帯び尋常の海水と其色を異にし一道の急瀨を爲し恰も海中に河流を形成するが如きを以てなり而して此海流は常に四五度の高熱を有し流動の度甚だ速く一晝夜に百里を流るゝ所ありと云ふ

其支流は對馬海峽より日本海に入り本州の北岸に沿ひ北流し又分れて一は津輕海峽に入り他は北流して宗谷海峽を経て阿可都科海に入る

本邦の寒流は親潮樺太海流、來滿海流の三派とす。親潮は遠く北氷洋より來りベーリング海峽を経て東塞加半島の東南を流れ南下して本州北部の東岸を洗ふものなり

此海水は暗濁色を帯び温度常に尋常の水より低くし且其速度及び分量は冬季に増加し夏季に減少するを常とす

樺太海流は阿可都科海の東北隅より發し樺太島の東岸を洗ひ我北州の北岸に達するものにして。來滿海流とは此一支流が亞細亞大陸の東岸を南下するものを云ふ

本邦に於ける潮汐の高低は其海洋により差異あり我太平洋面は渺茫たる大洋にして日月の引力自由に活動するを以て潮汐高低の度稍や大なるも日本海面は概して陸地に包まるゝを以て其高低甚だ少なし。又深く陸地に灣入せる海灣若しくは大河の河口の如き其高低殊に甚だしとす

氣候 氣候に寒暖の差異あるは主として緯度の高低に依

ると雖ども土地の高低海流の如何に依りて生ずるもの亦
 少なからず。本邦は北緯二十一度五十三分に起り五十度五
 十六分に終るを以て其緯度の大差あるのみならず邦内
 到る所高峯大巒錯綜し且つ寒暖二海流の我沿岸を洗ふもの
 あれば従つて各地の氣候に著るしき變化あり。故に一言以
 て其全般を判すべからずと雖ども要するに寒暖其和を得
 酷熱烈寒の人身を害するなく四季皆な快樂に生活するを
 得る世界の樂園なり

本邦にて最高温度を有する臺灣の南端は平均二十四度(華氏七十五度)に
 して其最低なる北海道の釧路は五度四十一度なり。而して我中央部に於
 ては暖流の影響を受くる南部と寒流に洗はるゝ北部とに依り、或は其中
 央部に大山脈ある等の爲め温度に種々の變化を生ずれば必ずしも其緯

度に依り其寒暖を判すべからず。譬は鹿兒島(薩摩)に於て冬季六、八を示し
 石巻(陸前)に於て〇、八を示すが如く、又本邦の脊骨たる信濃地方は緯度に
 比して非常に寒冷なる類是れなり

本邦は西北に亞細亞大陸を控へ東南は太平洋に面するを
 以て其風位を此二者に支配さるゝもの多し。即ち夏季は
 亞細亞大陸の地非常に熱せられ空氣稀薄なるが爲め太平
 洋面の空氣此方向に流動し。又冬季は亞細亞大陸非常に冷
 却し太平洋面却て空氣の稀薄を示すが爲め大陸より洋面
 に向ふて空氣の流動を生ず。是れ夏季に東南風多く冬季に
 西南風多き所以なり

此二種の風は本邦の氣候に影響するもの亦甚だ少なからず。譬は夏時の
 東南風は大洋の水面を掃ひ來るを以て炎熱の幾分を減殺し。冬時の西北

風は烈寒の西北大陸を吹き過ぐるを以て寒冷の度を増加するが如き是れなり

又九月中旬には往々颶風の起ることあり是れ氣候に劇變を生じたるに因するなり。此颶風は比律賓群島若しくは臺灣近海に起り東北に進み九州四國より本州を通過し遂に北州に達するを以て常とす

本邦は温帯に位し且つ四方皆な海洋を以て圍まるれば水蒸氣の量非常に多く随ひて雨雪の量も亦甚だ多し。概して夏期は東南風の影響に依り太平洋に面する地方に多く冬季は西北風の影響に依り日本海に面する地方に多し。是れ即ち海洋の表面を度れる風の水蒸氣を送り來れるに因す

るなり。又全國臺灣を除くを通じて雨量の最も多き季節は六月にして霖雨連日に互ることあり之を梅雨若しくは五月雨と稱す。又九月頃には颶風に伴ふて屢々暴雨の起ることあり此際は短時日に多量の雨水を降すを以て往々洪水の因を爲せり

本邦全年の平均雨量は一千五百七十三耗(凡そ五尺二寸)なり而して雨雪の量最も多き地は大平洋面に於て九州四國の南部沿岸地方并に本州中部の南岸地方にして日本海面に於ては本州中部の北岸地方なりとす。此地方は海面に密接するを以て水蒸氣を得る最も多量なるに因するものにして皆な二千耗以上の雨量を有せり。又雨雪最も少なき地は四國山系と中國山系に包まるゝ瀬戸内海に面する地方、本州の中央諸山系の錯綜せる信濃地方及び空氣寒冷にして水蒸氣を含有すること少なき東北地

方なりとす

植物[◎] 本邦は地形狹長にして南は熱帯に屬する臺灣より北は寒帯に接する千島に至り温熱二帯に跨るのみならず高山あり、海洋ありて種々の氣候を有するを以て植物の種類も亦甚だ多く、且つ地味の肥沃と雨量の多きとは自から植物の發生を助け到る所鬱蒼たる森林を見ざるなし

本邦の植物は大別して熱帯樹類、温帯樹類、寒帯樹類の三類と爲すべし。熱帯樹類は臺灣、琉球、小笠原島等の熱帯若しくは亞熱帯の地方に繁茂す。其主要なるものは樟樹、榕樹、烏木、檳榔樹、椰子樹、棕櫚、蘇鐵、羊齒等にして龍眼肉、甘蔗等の菓實あり、且つ甘蔗、米等の栽培に適す

温帯樹類は九州、四國、本州及北州の南部に生茂す。其主要なるものは松、杉、檜、樅、榧、公孫樹、樺、山毛榉、柯樹、榲桲、橡、檫、梅、櫻、楓、楡、漆樹、桑樹、茶、山茶、密柑等に

して米、麥等の穀類に適し且つ綿、煙草等をも産す。寒帯樹類は北州の北部及千島列島に生育す。其主要なるものは赤楊、偃松、椴松、羅漢松等にして麻、豆等の農産物あり、

動物[◎] 本邦は山岳重疊し深山幽谷に乏しからずと雖ども本州、四國、九州の地は概ね開拓せられ雞犬の聲相應ずるを以て野獸の生息するもの少なきも臺灣に豹、山猫等を産し北州に熊、狼等を棲ましむるあり。此他邦内に普通の野獸は猪、鹿、猿、兎、狐、狸、鼬等の類あり。又海獸には鯨、海豹、海獺、膾、豚、獸等あり。鳥類も亦獸類と同じく棲息するもの多からず。雁、鴨、鷺、雉、鳩、鴉等の類は各地に見る所なるも、鷲、鷹、鶴の如き大鳥は甚だ少なし。又各種の小鳥は山野の別なく棲息し四時快樂を歌

みつゝあり

魚介類は本邦特有産物の一として重きを爲すものにして
四面環海到る所に鱈、鯛、鰈、鯉、鮪、鯨、鮭、鱒、烏賊、鮫、鮑、蛤、牡蠣、海
鼠等の類を産す。殊に我北州の沿岸は世界の三大漁場（那威、
の西海岸及び北米ニウハウンドランド島の大沙洲）と稱せ
らるゝ地にして其漁獲の夥多なるは殆んど推測すべから
ず故に本邦富源の一として算せらる

第二章 人文地理

種族 本邦の住民は大和種、アイヌ種、漢種等の別あれども
皆な蒙古人種に屬する別支族なり。而して本邦に於て大多
數を占め我國家を組成する民族は大和種にして他は之に
隸屬する邊隅の小民族たるに過ぎず

大和種は此邦土を開き給ひし國祖の後裔にして言語、風俗、習慣を一にし
忠勇義烈、國家と消長を同じふする種族なり。アイヌ種は古昔我東方諸國
に散在住居せし人種なりしが漸々其數を減じて今や北州の一隅に残存
する種族なり。漢種は日清戦争の結果我領土の一部に加はりたる臺灣に
住する民族にして今尙ほ其母國たる清國と習俗を同じふする新附の種
族なり

族制 本邦の民族には從來の歴史的門閥、若くは國家に對

する勳功等より區別する四族あり之を皇族、華族、士族、平民と云ふ

皇族は我歴代天皇の御血統にして皇室と其尊嚴を同じふし永世渝るべからざる尊族より成り華族は歴世皇室に直隸したる公卿維新前各地に封ぜられたる諸侯若くは國家に拔群の功あるもの等其由緒経歴勳功に依り公侯伯子男の五爵を授けられたるものより成り士族は公卿諸侯等に隸屬し文武の職を執り或は治世の吏員たり或は戦時の兵員たりしものにして平民は前三族に列せず農工商等の業務に従事し被治者の地位に在りし數多の民衆なり故に其尊卑より云はば皇族最も尊くして平民最も卑しく其多少より云はば平民最も多くして皇族最も少なし

人口 本邦の人口は其面積に比すれば甚だ稠密なり我全國(臺灣を除く)の人口を通算すれば四千二百二十七万〇六

百二十人(明治二十八年末調査)あり此他臺灣の人口大約二百五十万人ありと假定すれば我總人口は四千五百万に近し之を二万七千〇六十二方里に配當すれば一方里の人口一千六百五十四人に相當す此の如く人口稠密なる邦國は白耳義、英吉利等の外其比を見ず我國各地人口の疎密は即ち左の如し

	面積	人口	一方里人口
畿内	四四六	二、六〇六、一三一	五、八四九
東海道	二、六五九	九、七二七、一〇一	三、六五八
東山道	二、六〇三	四、三六四、八三五	一、六七七
奥羽地方	四、二四七	四、六六六、九七九	一、〇九九
北陸道	一、五七八	三、八七一、六六九	二、四五四

山陰道	一、〇八八	一、八三〇、八三四	一、六八三
山陽道	一、五七〇	四、二〇三、四三八	二、六七七
南海道	一、五六二	三、六六六、一八一	二、三四七
西海道	二、六一八	六、〇一七、七〇二	二、二九九
北海道	六、〇九五	四六九、五〇七	七七
佐渡	五六	一一三、四三九	二、〇一四
隱岐	二二	三四、七八九	一、五八九
淡路	三七	一八九、四八五	五、一六四
壹岐	九	三五、八七〇	四、一五六
對馬	四五	三二、六二〇	七二九
琉球	一五七	四三七、八三二	二、七九〇
小笠原島	四	二、二〇八	四九一
總計	二四、七九四	四二、二七〇、六二〇	一、七〇六

五十

此表には臺灣を加へざれば本文に記する一方里の平均人口より其割合

を増加せり又面積に於て一里以下の端數を加除したり

又本邦に於て年々人口の増加するは大約四十五万内外の割合なり若し

此計算にて進行せば百年の後には今日に二倍する人口即ち九千万に達

すべし

教育 本邦は皇祖、皇宗の御遺訓を遵奉し夙に教育の大本を確定せるを以て古來より忠孝仁義の道發達し殆んど第一の天性を形成し公義に勇むの風あるに至りしも。文學技藝の如きは士族以上一種の種族中に限られ平民の如きに至りては日用普通の算筆を學ぶを以て其上乗とせしが明治維新以後泰西先進國の學制を斟酌し新たに學制を定め教育を奨励せられしを以て大小の學校頓に勃興し漸く普及の域に達し現時學齡兒童の就學するものは百分の六十

一に當れり

本邦に於ける學校の種類は大學校、高等學校、中學校、小學校、高等師範學校、尋常師範學校、高等女學校、各種の専門學校等あり。而して全國到る處、小學校の設けあらざる地なし。今其總數を擧ぐれば校數二万六千六百餘にして生徒の數三百六十七万餘あり。之に他の學校の數を加算すれば校數二万八千有餘、生徒三百八十万餘の多きに達せり。此他教育の機關たる圖書館、博物館、動物園、植物園等は其數未だ少なしと雖も官、公、私立を合すれば已に十を以て算するに至れり。又圖書出版の數は每一ヶ年大約二万七千部にして新聞雜誌の數七百五十三種、其發行高は四億以上に達

せり本邦文運の駸々乎として進歩する之を以て洞察するを得べし

◎**宗教** 本邦は一定の國教を定めず人々皆な信奉の自由を有せり。現に今日行はるゝ宗教は神道、佛教、及び基督教の三種とす。而して最も盛んなるは佛教なり

神道は本邦固有の宗教にして遠く神代の遺教を遵奉するものなり。其宗派數多あるも皆な我皇祖、皇宗若しくは有徳の君子を奉祀せる神社を尊崇禮拜するを以て職分とす。而して神社は伊勢太神宮を始めとし官國幣社百六十五、其他府縣社、郷社、村社等全國到る所に奉祀し其數大約十九万餘ありと云ふ

佛教は遠く一千三百年以前に韓土(現今の朝鮮)より本邦に傳來せしものにして爾後幾多の歳月を経たるを以て國民の之を信奉するもの甚だ多

し。故に我政度、文物、習慣、風俗に影響することも亦甚だ大なり。此教は屢改
 革を經、現今に於ては、天台、真言、淨土、臨濟、曹洞、黃檗、眞宗、日蓮、時宗、融通、念佛、
 法相、華嚴の十二宗に分派せり。全國寺院の數は七万一千八百餘あり。其有
 名なるものは、延曆寺(比叡山)に在り、天台宗(金剛峯寺(高野山))に在り、眞言宗
 知恩院(京都)に在り、淨土宗(東西兩本願寺(京都))に在り、眞宗(弘遠寺(身延山))
 在り、日蓮宗等なり。

基督教は今より四百年前より本邦に渡來せしが、徳川時代に於て國禁と
 なり、維新後更に布教せしものなれば、未だ盛んならずと雖ども、漸次國內
 に傳播するの現況にして、全國の會堂已に八百八十餘に及べりと云ふ。其
 宗派は新教、舊教、希臘教の三派とす。

區劃 本邦は古來より全國を大別して畿内、八道と爲し、更
 らに之を小別して八十五國に區劃せしが、現今は政治上の

便宜より一廳、三府、四十六縣となし、更に六百六十一郡に區
 劃せり。

畿内、八道、八十五國の區劃は古代より近世に至るまで屢々變更を經、遂に
 現今の如く區別するに至りしものにして、今日に於ては政治上必要なき
 が如しと雖ども、古來因習の久しき我民心に浸染するもの甚だ多きと、此
 區劃が専ら山河の形勝等に依り定められたるとは、今日尙ほ國人に便益
 を與ふるものあれば、今尙ほ之を記臆するの必要あり、即ち左の如し。

- 畿内(五國) 山城、大和、河内、和泉、攝津
- 東海道(十五國) 伊賀、伊勢、志摩、尾張、三河、遠江、駿河、甲斐、
伊豆、相模、武藏、安房、上總、下總、常陸
- 東山道(十三國) 近江、美濃、飛騨、信濃、上野、下野、磐城、岩代、
陸前、陸中、陸奥、羽前、羽後
- 北陸道(七國) 若狹、越前、加賀、能登、越中、越後、佐渡

山陰道(八國) 丹波、丹後、但馬、因幡、伯耆、出雲、石見、隱岐、
 山陽道(八國) 播磨、美作、備前、備中、備後、安藝、周防、長門、
 南海道(六國) 紀伊、淡路、阿波、讃岐、伊豫、土佐、
 西海道(十二國) 筑前、筑後、豊前、豊後、肥前、肥後、日向、大隅、
 薩摩、壹岐、對馬、琉球、
 北海道(十一國) 渡島、後志、石狩、天鹽、北見、膽振、日高、十勝、
 釧路、根室、千島、

臺灣は彼の日清戦役の結果に依り本邦の領域に加はりしものにして未
 だ道國等の名稱を有せず
 廳、府、縣、郡は明治維新後に定められたる政治上の區劃にして、今日まで屢
 々變更ありしも施政上の事は總て此區劃に依り實行せり。今之を國名と
 對照するに左の如し

中央東部地方

東京府(武藏の一部、豆南七島、小笠原島)
 神奈川縣(武藏の一部、相模)
 静岡縣(駿河、遠江、伊豆)
 山梨縣(甲斐)
 埼玉縣(武藏の一部)
 千葉縣(下總の大部、上總、安房)
 茨城縣(常陸、下總の一部)
 栃木縣(下野)
 群馬縣(上野)
 長野縣(信濃)
 新潟縣(越後、佐渡)
 福島縣(岩代、磐城の大部)
 宮城縣(陸前の大部、磐城の一部)

東

北

岩手縣(陸中の大部、陸奥の一部、陸前の一部)

地

青森縣(陸奥の大部)

方

秋田縣(羽後の大部、陸中の一部)

山形縣(羽前、羽後の一部)

愛知縣(尾張、三河)

三重縣(伊勢、伊賀、志摩、紀伊の一部)

岐阜縣(美濃、飛驒)

富山縣(越中)

石川縣(加賀、能登)

福井縣(越前、若狹)

滋賀縣(近江)

奈良縣(大和)

和歌山縣(紀伊の大部)

中部西

地方

大阪府(攝津の一部、河内、和泉)

京都府(山城、丹後、丹波の一部)

兵庫縣(攝津の一部、丹波の一部、播磨、但馬、淡路)

鳥取縣(因幡、伯耆)

島根縣(出雲、石見、隱岐)

山口縣(周防、長門)

廣島縣(安藝、備後)

岡山縣(備前、備中、美作)

香川縣(讃岐)

德島縣(阿波)

高知縣(土佐)

愛媛縣(伊豫)

福岡縣(筑前、筑後、豊前の一部)

中國四方

九州地方

佐賀縣(肥前の大部)
 長崎縣(肥前の一部、壹岐、對馬)
 熊本縣(肥後)
 大分縣(豐後、豐前の一部)
 宮崎縣(日向)
 鹿兒島縣(薩摩、大隅)

最北地方

渡島、後志、石狩、天鹽
 北海道廳 北見、膽振、日高、十勝
 釧路、根室、千島

最南地方

沖繩縣(琉球諸島)
 臺北縣(臺灣の北部)
 臺中縣(臺灣の中部)
 臺南縣(臺灣の南部)

本表に於て各縣を七地方に區別せしは附圖と對照するの便宜に従ひしなり

國體 本邦は開闢以來万世一系の皇統を奉戴する君主國にして、上は聖明なる 天皇陛下親しく萬機を統治し給ひ、下は億兆の臣民優渥なる德澤に浴し上下相和し貴賤相親しみ宛も一家族の如くにして、他の邦國と自ら其國體を異にせり。且本邦は一血統より發達繁殖せる民族より形成するものなれば即ち血族國家と稱すべし

政體 本邦の政體は家族政治より發達せる君主獨裁の政體にして生殺與奪の權一に 天皇の一身に歸せしが我叡聖文武なる 今上天皇陛下は深く臣民を愛撫し給ふ大御

心を以て、明治二十三年二月十一日建國紀元の佳節を以て、
 憲法を發布し立憲政治の基礎を定められ、立法、行政、司法の
 三大権を確立せられたり

立法部は帝國議會と稱し貴族院及び衆議院の二院より成
 立す。貴族院は皇族、華族、及び勳功、學識あるものより殊に敕
 撰されたる議員、又は各府縣の多額納稅者の互撰に依り撰
 出せし議員の四種を以て組織し其數三百人以下とす。衆議
 院は直接國稅十五圓以上を納むる公民中より撰出せる議
 員を以て組織し其數三百人なり

議會は毎年十一月を以て召集し九十日を以て開期とす。總て本邦の法律
 は帝國議會の協賛を経るを要す

行政部は内閣を以て最高府とし、其下に内務、外務、大藏、陸軍、
 海軍、司法、文部、農商務、逓信の九省あり。各省には國務大臣各
 一人を置き内閣總理大臣之を總轄す。各國務大臣は分れて
 は各省の政務を掌どり合しては帝國の大政を料理するも
 のなり。尙ほ別に宮内省を置き大臣一人を任命し専ら帝室
 に關する一切の事を掌どらしむ。此外樞密院なるものあり
 國家の元老を以て組織し 天皇陛下の最高顧問府に充て、
 會計検査院なるものあり各省の外に特立して帝國一切の
 會計を監督す

地方の行政は各府縣に知事を置き其管内の政務を統轄せ
 しめ其下に市、郡、區、町、村役所を設け各其長を置く。又北海道

廳には長官を置き、臺灣には總督を置き、各其管内を總轄せしむ

各府、縣、市、郡、區、町村には特別の議會を設置し、管内に於ける政費の出納を議決せしむ

司法省は大審院、控訴院、地方裁判所、及び區裁判所より成る。此各法衙には判事、檢事等の職員を置き、専ら法務を掌どり國民をして冤枉に泣くものなからしめんことを期せり

大審院は帝國の最高法衙にして東京に設置され、控訴院は東京、大阪、名古屋、廣島、仙臺、長崎、函館の七所に置き、地方裁判所は各府縣に各一ヶ所、區裁判所は全國を通して三百有餘あり

臺灣は新附の人民にして風俗人情を異にし、自ら本國と異なる所あれば別に高等法院、覆審院及び地方法院なるものを設け、法務を管掌せしむ

兵備 本邦の兵備は陸軍、海軍の二に分ち 天皇陛下の親く統御し給ふ所にして全國皆兵の制なり。故に臣民にして滿十七歳乃至四十歳の男子は其華族、士族、平民たるを論ぜず特別の事情あるにあらざれば皆兵役に服するの義務あり

兵役は常備、後備、補充國民の四役に分つ。常備は現役、豫備役の二とし、陸軍は現役三年、豫備役四年、海軍は現役四年、豫備役三年、後備は陸海軍共五年、補充役は陸軍にては第一、第二の補充役に分れ、二役合して七年九ヶ月なるも、海軍は僅かに一年なり。又國民兵役は前三兵を終りたるもの等總て兵役年限内の男子の服するものなり

本邦の陸軍制度は全國を三都督部、十三師團、二十六旅團、五十二聯隊區に區別す、即ち左表の如し

都督部、及師團、旅團、聯隊所在地

都督部		東都督部 (京東)							中都督部 (阪大)		
師團	所在地	第一師團	第二師團	第七師團	第八師團	第三師團	第四師團	第九師團	旅團	旅所在地	兵聯隊配備地 (地名の下は聯隊號)
近衛師團	東京	東京	仙臺	札幌	弘前	名古屋	大阪	金澤	近衛第一旅團	東京	東京(一)
		東京	仙臺	札幌	弘前	名古屋	大阪	金澤	近衛第二旅團	東京	東京(三)
		東京	仙臺	札幌	弘前	名古屋	大阪	金澤	第一旅團	東京	東京(二)
		東京	仙臺	札幌	弘前	名古屋	大阪	金澤	第二旅團	東京	東京(一)
		東京	仙臺	札幌	弘前	名古屋	大阪	金澤	第三旅團	東京	東京(三)
		東京	仙臺	札幌	弘前	名古屋	大阪	金澤	第四旅團	弘前	弘前(一)
		東京	仙臺	札幌	弘前	名古屋	大阪	金澤	第五旅團	名古屋	名古屋(六)
		東京	仙臺	札幌	弘前	名古屋	大阪	金澤	第六旅團	名古屋	名古屋(七)
		東京	仙臺	札幌	弘前	名古屋	大阪	金澤	第七旅團	大阪	大阪(八)
		東京	仙臺	札幌	弘前	名古屋	大阪	金澤	第八旅團	弘前	弘前(三)
		東京	仙臺	札幌	弘前	名古屋	大阪	金澤	第九旅團	弘前	弘前(二)
		東京	仙臺	札幌	弘前	名古屋	大阪	金澤	第十旅團	弘前	弘前(四)
		東京	仙臺	札幌	弘前	名古屋	大阪	金澤	第十一旅團	弘前	弘前(五)
		東京	仙臺	札幌	弘前	名古屋	大阪	金澤	第十二旅團	弘前	弘前(六)
		東京	仙臺	札幌	弘前	名古屋	大阪	金澤	第十三旅團	弘前	弘前(七)
		東京	仙臺	札幌	弘前	名古屋	大阪	金澤	第十四旅團	弘前	弘前(八)
		東京	仙臺	札幌	弘前	名古屋	大阪	金澤	第十五旅團	弘前	弘前(九)
		東京	仙臺	札幌	弘前	名古屋	大阪	金澤	第十六旅團	弘前	弘前(一〇)
		東京	仙臺	札幌	弘前	名古屋	大阪	金澤	第十七旅團	弘前	弘前(一一)
		東京	仙臺	札幌	弘前	名古屋	大阪	金澤	第十八旅團	弘前	弘前(一二)

西都督部 (倉小)		第十師團		第九旅團		第八旅團	
第五師團	廣島	第二十一旅團	山口	福知山	福知山	姫路	鳥取
第六師團	熊本	第二十二旅團	熊本	廣島	福知山	姫路	姫路
第十一師團	九龍	第二十三旅團	大村	廣島	福知山	姫路	姫路
第十二師團	小倉	第十旅團	松山	廣島	福知山	姫路	姫路
		第十一旅團	松山	廣島	福知山	姫路	姫路
		第十二旅團	小倉	廣島	福知山	姫路	姫路
		第十三旅團	小倉	廣島	福知山	姫路	姫路
		第十四旅團	久留米	廣島	福知山	姫路	姫路
		第十五旅團	久留米	廣島	福知山	姫路	姫路
		第十六旅團	久留米	廣島	福知山	姫路	姫路
		第十七旅團	久留米	廣島	福知山	姫路	姫路
		第十八旅團	久留米	廣島	福知山	姫路	姫路

但し臺灣は未だ以上の管外なるを以て各管内より兵員を出し三個の混成旅團を編成し其守備に任せしむ

此他各要地の砲臺には要塞砲兵を配布し之が守備防禦に當らしめ又緩急相應するに不便なる絶海の孤島佐渡隠岐對馬五島沖繩大島小笠原島には警備隊を駐屯せしめ有

都督部		東 都 督 部 (京 東)							中 都 督 部 (阪 大)				
師 團	近衛師團	第一師團	第二師團	第七師團	第八師團	第三師團	第四師團	第九師團	師 團	近衛師團	第一師團	第二師團	第七師團
所在地	東京	東京	仙臺	札幌	弘前	名古屋	大阪	金澤	旅 團	近衛第一旅團	近衛第二旅團	第一旅團	第二旅團
	東京	東京	仙臺	札幌	弘前	名古屋	大阪	金澤	旅 團	近衛第一旅團	近衛第二旅團	第一旅團	第二旅團
	東京	東京	仙臺	札幌	弘前	名古屋	大阪	金澤	旅 團	近衛第一旅團	近衛第二旅團	第一旅團	第二旅團
	東京	東京	仙臺	札幌	弘前	名古屋	大阪	金澤	旅 團	近衛第一旅團	近衛第二旅團	第一旅團	第二旅團
	東京	東京	仙臺	札幌	弘前	名古屋	大阪	金澤	旅 團	近衛第一旅團	近衛第二旅團	第一旅團	第二旅團
	東京	東京	仙臺	札幌	弘前	名古屋	大阪	金澤	旅 團	近衛第一旅團	近衛第二旅團	第一旅團	第二旅團
	東京	東京	仙臺	札幌	弘前	名古屋	大阪	金澤	旅 團	近衛第一旅團	近衛第二旅團	第一旅團	第二旅團
	東京	東京	仙臺	札幌	弘前	名古屋	大阪	金澤	旅 團	近衛第一旅團	近衛第二旅團	第一旅團	第二旅團
	東京	東京	仙臺	札幌	弘前	名古屋	大阪	金澤	旅 團	近衛第一旅團	近衛第二旅團	第一旅團	第二旅團
	東京	東京	仙臺	札幌	弘前	名古屋	大阪	金澤	旅 團	近衛第一旅團	近衛第二旅團	第一旅團	第二旅團
	東京	東京	仙臺	札幌	弘前	名古屋	大阪	金澤	旅 團	近衛第一旅團	近衛第二旅團	第一旅團	第二旅團

西 都 督 部 (倉 小)				東 都 督 部 (京 東)			
第十師團	第五師團	第六師團	第十一師團	第十二師團	第九旅團	第十一旅團	第十二旅團
姫路	廣島	熊本	丸龜	小倉	福知山	山口	松山
第八旅團	第二十旅團	第九旅團	第十一旅團	第十二旅團	福知山	山口	松山
姫路	福知山	廣島	熊本	松山	福知山	山口	松山
姫路(一〇)	福知山(二〇)	廣島(一一)	熊本(一三)	松山(三二)	福知山(二〇)	山口(四二)	松山(三二)
鳥取(四〇)	姫路(三九)	廣島(四一)	熊本(二三)	高知(四四)	福知山(二〇)	山口(四二)	松山(三二)
			熊本(二三)	高知(四四)	福知山(二〇)	山口(四二)	松山(三二)
			熊本(二三)	高知(四四)	福知山(二〇)	山口(四二)	松山(三二)
			熊本(二三)	高知(四四)	福知山(二〇)	山口(四二)	松山(三二)
			熊本(二三)	高知(四四)	福知山(二〇)	山口(四二)	松山(三二)
			熊本(二三)	高知(四四)	福知山(二〇)	山口(四二)	松山(三二)
			熊本(二三)	高知(四四)	福知山(二〇)	山口(四二)	松山(三二)

但し臺灣は未だ以上の管外なるを以て各管内より兵員を出し三個の混成旅團を編成し其守備に任せしむ

此他各要地の砲臺には要塞砲兵を配布し之が守備防禦に當らしめ又緩急相應ずるに不便なる絶海の孤島佐渡隠岐對馬五島沖繩大島小笠原島には警備隊を駐屯せしめ有

事の日に於ける警備に任せしむ
 陸軍の兵種は歩兵、騎兵、工兵、輜重兵、屯田兵、憲兵、鐵道隊、軍樂隊等にして各其必要に應じ分配され國內の要所に駐屯す。
 其兵員八万五千餘あり。之に上長官、士官及び下士官を加ふれば大約十方に近し
 本邦の海軍は軍艦四十三隻(此噸數十萬四千噸餘)水雷艇二十八隻より成立す。而して此軍艦等は各海軍區に分屬す。海軍區は本邦(臺灣を除く)の海岸及び海面を五區に分ちしものにて、各區に軍港を置き、之に鎮守府を設け各區の海面を管轄す

海軍區、軍港、鎮守府所在地及び管轄區域

區劃	軍港	鎮守府	管轄區域	海岸延長里程
第一海軍區	相模國	橫須賀港	鎮守府	一、〇五七
第二海軍區	安藝國	吳港	鎮守府	二、〇六七
第三海軍區	肥前國	佐世保港	鎮守府	一、四九七
第四海軍區	丹後國	舞鶴港	鎮守府	一、〇五五
第五海軍區	膽振國	室蘭港	鎮守府	二、二七六

以上五鎮守府の内舞鶴は工事未だ竣らず。室蘭は豫定地なるのみにて今日は横須賀、吳、佐世保三軍港にて之を分管す

本邦の軍艦中最も大なるものは富士、八島の二艦にして各一万二千噸餘なり。此他日清戰役に軍功ある松島、嚴島、橋立、吉野、浪速、高千穂等あり。又清國より收容せる鎮遠、濟遠、平遠、操江、鎮南、鎮北、鎮東、鎮西、鎮中、鎮邊等あり。尙ほ之に加ふるに現今内外諸國に於て製造中の軍艦を以てすれば噸數大

約二十万噸に達すべければ本邦の海軍は更に一層の盛大を加ひ東洋惟一の海軍國たるに至るべし

土地 本邦の土地は古來帝室の御領にして國內總て王土にあらざるなきを以て各地に領主、地頭等を置き其領内を管治せしめたりしが、維新以來其制を更め官有地、民有地の區別を定め人民に土地を私有するの權を附與されたり。現今官有地は全國面積の大約五分の三にして民有地は五分二なり

民有地反別地價

種別	反別	地價	平均一反地價
田地	二七三一、六六〇	一、〇九七、八七〇、三一一	四〇、一九
畑地	二、二七七、〇二二	二五、一、九四六、〇五三	一一、〇三

鹽田	山林	原野及牧場	雜種地	總計
七、〇二四	七、三二七、四四二	一、〇七四、八一三	二、二二七、六	一、三、四二九、二三八
一九二〇、四一三	二、四、二〇四、四五九	二、三、八六、〇二八	一、〇六八、八四七	一、三、七九、三九六、一一一
二七、三四	〇、三三	〇、二二	五、〇二	九、〇二

農産 本邦は氣候溫暖にして雨量饒多なるを以て地味最も肥沃なれば従つて天産物甚だ豊富なり。殊に農業の如きは古來より國の大本として敬重したれば其發達最も著しく農民の數全國人口の三分の二を占めたり。然るに近來益々之が奨勵に力を盡し農學校、試作場等を設け農産物共進會等を開き其成績頗る見るべきものあり。現今田畑として使用せらるゝ反別は大約五百餘万町にして其農産は米(四

千万石を以て最とし麥一千七百万石之に次ぎ其他大小豆
 (八百五十万石)粟(二百三十万石)蕎麥(百二十万石)稗(百万石)黍
 (二十五万石)甘藷(六億貫)馬鈴薯(四千五百万貫)等あり又藍綿
 麻煙草砂糖漆等も亦我國産として數ふべし
 此他生糸と茶とは海外輸出品中最重要の位置を占むれば
 其生産大に發達し全國到る處其産あらざるなく、毎年生糸
 二百十萬貫、茶九百九十萬貫以上を産出するに至れり
 林産 本邦は地味肥沃なるが爲め農産と同じく林産も亦
 豊富にして、到る所山林に富めり。其最も良材の産出に富め
 る國を擧ぐれば陸奥、羽後、上野、下野、信濃、越中、伊豆、駿河、遠江、
 伊勢、大和、紀伊、日向等にして各國特有の良材を出せり。其内

松、杉、檜、樅、樺等を最も多しとす

森林の反別は大約一千五百万町歩にして、其立木も亦之に應じて甚だ多
 く數百億を以て數ふべし。然れども近年支那地方に木材を輸出する爲め
 森林を濫伐するの弊あり。森林は固より薪炭、木材等の材料たるを以て之
 を採伐するは當然の事なるが如しと雖ども、亦國土の風景を裝飾し、氣候
 の變化を調和し、且つ水源を涵養し、土壤を保存する等、森林の有無は民業
 の盛衰に影響するもの少なからず、故に近年漸く其保護法に顧念するに
 至れり

畜産 本邦の牧畜は未だ充分に發達せざれば其産出も亦
 多からざりしが、近年肉食の必要を感ずるや漸く斯業を勵
 精するの傾向あり。畜産中最も盛んなるは牛馬にして、鶏豚
 之に次ぐ。又其産地を記すれば牛は中國、四國、九州、陸中に多

く、馬は東山、西海の二道及び常陸、越後に多し。豚は其數牛馬に比し甚だ少なく、鹿兒島、宮崎、千葉、長崎の諸縣に産し、鶏は到る處農家の餘業として飼養するも、千葉、島根、岡山の諸縣は殊に盛んなり

全國に飼養せる牛は一百十三万頭餘にして、馬は一百五十三万頭餘なり。共に歐米各開明國の人口に對する比例と對照すれば甚だ少數なり。然るに近年漸く之が需用を増加するの傾きあれば、外國より良種を輸入し頻に之が改良を盡れり。又山羊、綿羊の飼養は之を試むるものなきにあらざるも、未だ之が生産を見るに至らず。本邦は常に濕氣多ければ牧羊に適すべければ他日幾分の産出あるべしと雖ども、之に使用すべき地積に乏しければ、或は充分の發達を見るべからざらんか

水産 本邦は四面皆海を以て環らし且つ我北州の如きは

世界の三大漁場と稱せらるゝ地なれば、水産物の饒多なる世界に其類少なし。殊に近年漁獲法の進歩したるが爲め、更に一層其富源を開拓したれば、其産額益々増加するに至れり。今其主なる水産を擧ぐれば、魚介に鯡、鱈、鯉、鮭、鱒、鱒、鰯、鰯、鰯、鮑、烏賊、牡蠣、蝦等、海藻に昆布、荒布、和布、石花菜、海苔等あり、又製品には各種の干魚、鹽魚、魚油、搾滓、食鹽等あり、毎年の産額三千六百五十万圓以上なりと云ふ

鑛業 本邦は地質甚だ錯雜せるを以て諸種の鑛物に富めり。近來泰西の採鑛法に倣ひ之が改良を謀りしに依り、其産額大に増加せり。其鑛物中主なるものは石炭、銅にして、鐵、金、銀、硫黃、安質、母尼等之に次ぐ。此他大理石、石花崗石、水晶、陶土、石

油等亦産す

石炭は一年の産額大約五百万噸に近し、主として九州の西北部、北州の西南部に産す。今日に於ては年々外國に輸出するもの二百万噸以上に達せり。銅の産出も亦非常に多く、年額五百万貫以上に達し、世界中第三位に數へられ、其輸出も甚だ多し。下野の足尾、伊豫の別子等は最も有名なる産地なり。硫黄は其産出に於て現今世界中第二位を占むるも、本邦は有名なる火山國にして其産出地數多ければ他日は第一位に進むに至らんか。安賀、母尼も亦其産出甚だ多く、世界の第二位を占めたり。金銀は古來より佐渡、生野（但馬）を稱し、其他各所に産す。鐵は從來産額甚だ多からざるも、各所に鐵鑛多く、目下製鐵所の設備中なれば他日有望の鑛産たるに至らん。

工業 本邦は古來手工を以て名あり故に織物、陶磁器、漆器

彫刻物等に於ては其意匠の精美巧緻なる人を驚かすものあるを以て世界有數の美術國として稱賛されたり。然れども其規模甚だ狹小なるが爲め我國家に大益を興すに足らざりしが、維新以來國運の進歩すると同時に泰西の器械を輸入し漸く大工業を企畫するに至り、綿糸、摺附木、印刷紙、煉瓦、セメント等の産あり。又清酒の醸造は本邦特有の物産なるが近年之に加ふるに麥酒、葡萄酒等の産あるに至れり。

織物は京都の西陣を最とし、群馬、栃木、東京、福井、山梨、愛知、和歌山、大阪等の各縣に産し、陶磁器は愛知、佐賀、岐阜、石川等より出づ。兵庫縣の清酒、千葉縣の醤油亦有名なり。又近年の新製品に於ては大阪、東京等の紡績糸、東京、静岡、兵庫等の印刷紙、兵庫、大阪等の摺附木を以て其主なるものとす。

商業 本邦は徳川時代に於て鎖港攘夷を以て國是とし、外

國との交通を絶ちしに依り、海外貿易の發達せざるは勿論、國內も亦封建の制度にして諸侯皆其領土を區劃し相互の交通充分ならざりしが爲め、商業振はず各一地方に跼蹐せしも、今や此小區劃を除き開港進取の氣運に向ひしを以て、物貨の交通頻繁を極め商業大に振作するに至れり。内國商業は東京、大阪を以て東西の二大商業地とし名古屋、仙臺、德島、廣島、熊本等の各市亦内外物産の聚散地たり。此等商業地には各種の銀行、取引所、運送業等ありて金銀、貨物の運轉を敏活ならしむ。

金融機關として國立、私立の各銀行あり此他全國の經濟を整理する日本銀行、及海外貿易の金融を調和する正金銀行、及び業務の獎勵を目的とする勸業銀行等あり。又陸には内國通運會社等の各運送業者海には郵船會

社等の航海業者ありて貨物運輸の事を掌どり商業の機關粗々完備せり。内國にて最も取引する貨物は米穀にして清酒、生糸、織物、茶、石炭、木材、魚介等之に次ぐものなり。

外國貿易は近來大に進歩し横濱、神戸、大阪、長崎、函館、新潟の六港を始め各地の特別輸出入港に於て活潑に取引さるゝに至れり。輸出品の最たるものは生糸にして絹布、石炭、米穀、製茶、摺附木、綿糸、生銅、地氈、樟腦、魚介等之に次ぎ其總額一億一千六百万圓以上なり。又輸入品の最たるものは棉花にして毛布、砂糖、鐵類、綿布、石油、機械等之に次ぎ其總額一億七千万圓以上なり。

本邦の輸出國は北米合衆國(三千一百万圓餘)を第一とし香港(一千九百万圓餘)、佛蘭西(一千九百万圓餘)、支那(一千三百万圓餘)、英吉利(九百万圓餘)、英領

印度(四百五十万圓餘)朝鮮(三百三十万圓餘)獨逸(二百九十万圓餘)伊太利(二百六十万圓餘)魯領亞細亞(一百七十万圓餘)英領亞米利加(一百五十万圓餘)濠太利利(一百四十万圓餘)之に次ぎ、又輸入國は英吉利(五千九百万圓餘)を第一とし、英領印度(二千二百万圓餘)支那(二千一百万圓餘)獨逸(一千七百万圓餘)北米合衆國(一千六百万圓餘)香港(九百万圓餘)佛蘭西(七百六十万圓餘)朝鮮(五百万圓餘)白耳義(三百万圓餘)瑞西(二百五十万圓餘)比律賓諸島(一百八十万圓餘)佛領印度(一百六十万圓餘)魯領亞細亞(一百三十万圓餘)等之に次ぐ

特別輸出入港は博多(筑前)唐津(肥前)濱田(石見)敦賀(越前)口の津(肥前)境(伯耆)四日市(伊勢)清水(駿河)七尾(能登)にして、朝鮮に限れるものは下の關(長門)博多(嚴原)對馬(鹿見)同上(佐須奈)同上(朝鮮)浦鹽(斯德)に限れるものは宮津(丹波)支那に限れるものは那覇(琉球)なり。又特別輸出港は下の關(博多)口の津(唐津)肥前(門司)豊前(三角)肥後(伏木)越中(小樽)後志(四日市)釧路(釧路)室蘭(膽振)な

交通 交通の便否は一國の進運に關係すること最も大なり。故に本邦に於ても近年大に之が改良に力を盡し、道路、鐵道、船舶、郵便、電信、電話等の交通機關略々具備するに至れり。

本邦の道路に國道、縣道、里道の三種あり。國道は東京より道廳、府縣廳、開港場、師團本部、鎮守府及び伊勢の大廟に達するものを云ひ、縣道は各府縣を聯絡し各師團より各分營に達するもの及び府縣廳より郡市役所に通じ、若くは著名の都邑と便宜の海港とを連結するものを云ひ、里道は前二道に加はらざる町村の間を通ずるものを云ふ。

本邦に於ける道路の主要なるものは東海道、中山道、奥羽街道、北陸街道、山陽街道、山陰街道、四國街道、九州街道、北州南街道、北州北街道、臺灣西部街道

是れなり

臺灣の道路は最も不完全にして未だ三道の區別なしと雖も、本邦内地に於ては確然其區別を整備し府、縣、郡、町、村の經費にて年々之が修繕に任じたり

本邦の鐵道は明治五年始めて東京、横濱間に創設してより以來線路の延長年々増加し目今に於ては全國の著名都邑を連結し其延長大約三千哩に及びべり。此他尙ほ工事中の線路を合算すれば大約五千哩に達すべし

本邦の地勢は狹長にして中央に急峻なる山系を有するを以て縦貫線路は多く海岸に布設され横斷線路の如きは未だ充分に延長するに至らず。是れ地勢上工事の困難なると内地に大都會を有せざるとに起因するなり。然れども鐵道の布設ある地と布設なき地とは其發達に於て差等あれ

ば他日大に擴張さるゝに至らんか

本邦の縦貫線路は本州に於ては大平洋面にて青森より下の關に達し、日本海面にて敦賀、高岡間及び直江津、沼垂間の線路あり。九州にては門司より八代に至り、北州にては岩見澤より旭川、永山に至れり。又横斷線路は本州に東京、直江津間、米原、敦賀間の二線路あり、九州に鳥栖より長崎或は佐世保に達するもの、北州に手宮より室蘭に達するもの等あり。此他東京、大阪等の近傍に小線路甚だ多し。又臺灣にも基隆より新竹に至るものありて他日漸やく延長して其縦貫鐵道たるに至らん

海運事業も近來著しく發達し船舶の數大に増加し西洋形船一千七百餘艘(噸數三十二万噸)日本形船五百八十四艘の多きに達せり。此氣運に依り益々進歩せば他日東洋の海國たるに耻ぢざるに至るべし

其航路は内地各貿易港は勿論東は布哇及び北米合衆國に達し、西は香港、新嘉坡、印度より歐洲に及び、南は濠太刺利諸州に至る。此他支那、朝鮮の諸港、及浦鹽斯德等大抵定期航海の船舶あり

本邦には各要所に燈臺、浮標等航路標識の設ありて航海の安全を謀り、又航海事業を奨励せんが爲め航海奨励法なるものを發布し、適當なる船舶に保護金を下附する等海運業の發達を計畫するものあり、目下本邦に於て最大なる航海業者は日本郵船株式會社、汽船九十三艘、噸數十六万餘噸、大阪商船株式會社、汽船六十九艘、噸數二万六千餘噸等なり

本邦の郵便制度は明治四年の創設にして爾來年々之が改良進歩を謀り全國の都邑盡く郵便局の設あらざるなく、其集合配達の法、整然として具備したれば、其用漸次發達し今

日に於ては一ヶ年の郵便物五億万以上に上り、郵便局の數三千七百餘に及べり

本邦の電信線は明治二年に始めて東京、横濱に架設せしが、今や全國の主要なる都會に通ずるに至り、一ヶ年の電信數は大約一千一百万に達し、電信局の數八百餘に及べり、又電話線は明治十八年に創設して東京、大阪、京都、神戸、名古屋、堺、福岡、馬關等の著名都市に架設され、其交換加盟者五千を以て數ふるに至れり

第三章 處誌

中央東部地方

中央東部地方は本邦中央の東部に位し、西は中央西部地方に接し、東は東北地方に境し、南北は海に面せり。其疆域は東海道の一部、東山道の一部及び北陸道の一部に跨がり、面積四千五百五十一方里、人口一千八百九十萬餘を有す。今其國名及び府縣名を擧ぐれば左の如し

國名

遠江 駿河 甲斐 伊豆 相模 武藏 安房 上總 下總 常陸

信濃 上野 下野 越後 佐渡

府縣名

東京府 神奈川縣 埼玉縣 千葉縣 茨城縣 栃木縣 群馬縣

山梨縣 静岡縣 長野縣 新潟縣

地勢 中央東部地方は支那山系、樺太山系の結合點にして、

富士火山帶の横斷する地なるを以て、數多の山脈四方より集まり峻險なる山岳重疊起伏せり。故に其中央に於ては一帯の高地を形成し、南北海洋に臨める方面に向て傾斜せり。中央高地は甲、信の地を中央とし、南方駿、遠の地より北方越後に跨がり、西方は中央西部地方の濃飛高原より東方は常野の地に亘れり。此間一帯の隆起地にして高峻なる山岳は一万尺以上に達するものあり。故に南北兩斜面に流るゝ河流は概して此地方に發源せり。

南方斜面は武藏を中央とする關東平原と駿、遠の海岸地方

とを以て形成せり。關東平原は所謂關八州の平野と稱する本邦第一の平原にして利根川、荒川、多摩川等の灌域なれば田園遠く連なり人口日に増殖し我帝都たる東京を始め數多の繁盛なる都會を有せり。

北方斜面は南方は山岳並列し北方は日本海に面せり所謂越後の平野と稱するものにして、域内所々山岳の起伏するものなきにあらざるも信濃川灌域の如きは本邦有數の平原にして、又有名の農産地なり。

要するに中央東部地方は本邦第一の山岳地方を有し又平原地方を有せり。故に有名なる山脈河流に乏しからず今之を一括して列擧すれば左の如し

山脈

- 富士火山脈 岩木火山脈 彌彦火山脈 帝釋山脈 阿武隈山脈
- 關東山脈 赤石山脈 木曾山脈 房總山脈

河流

- 信濃川 利根川 天龍川 阿賀川 大井川 荒川 那珂川
- 多摩川 富士川 相模川 安部川

産物 中央東部地方の産物は其主たるもの農産にして林産、海産之に次ぎ鑛産、畜産又之に次ぐ今其一二を擧ぐれば農産中米は新潟、千葉、茨城に産額多く、麥は武藏、常陸、房總地方に適す。茶は駿遠地方を最とし常陸、武藏、下總に産し、煙草は常陸、相模を推す。綿は三河、常陸、房總地方を可とし、麻は下野、信濃の地に産す。養蠶業は各地到る處多少の産なきにあ

らざるも其最たるものは上野、信濃、武藏、甲斐、相模、越後とす。又畜産にては信濃、常陸、房總半島の馬、安房、伊豆、佐渡の牛等の特産とし、鑛産にては佐渡の金、銀、越後、遠江の石油、信濃の硫黄、甲斐の水晶、伊豆、相模の石材等を稱す。此他信濃、下野の木材、房總半島沿岸の漁獲等亦全國に有名なるものなり。

交通 中央東部地方の交通路は帝都たる東京を中央とし、西方太平洋岸に通ずるものは東海道にして、中央高地を西方に向ふものは中仙道なり。又北方關東平原を貫通するものを奥羽街道と稱し、其東北、常陸の沿岸を北向するものを奥羽濱街道と稱し、越後の沿岸に在るものを北國街道と云ふ。此他甲州街道、新潟街道、千葉街道あり。鐵道線路は概して

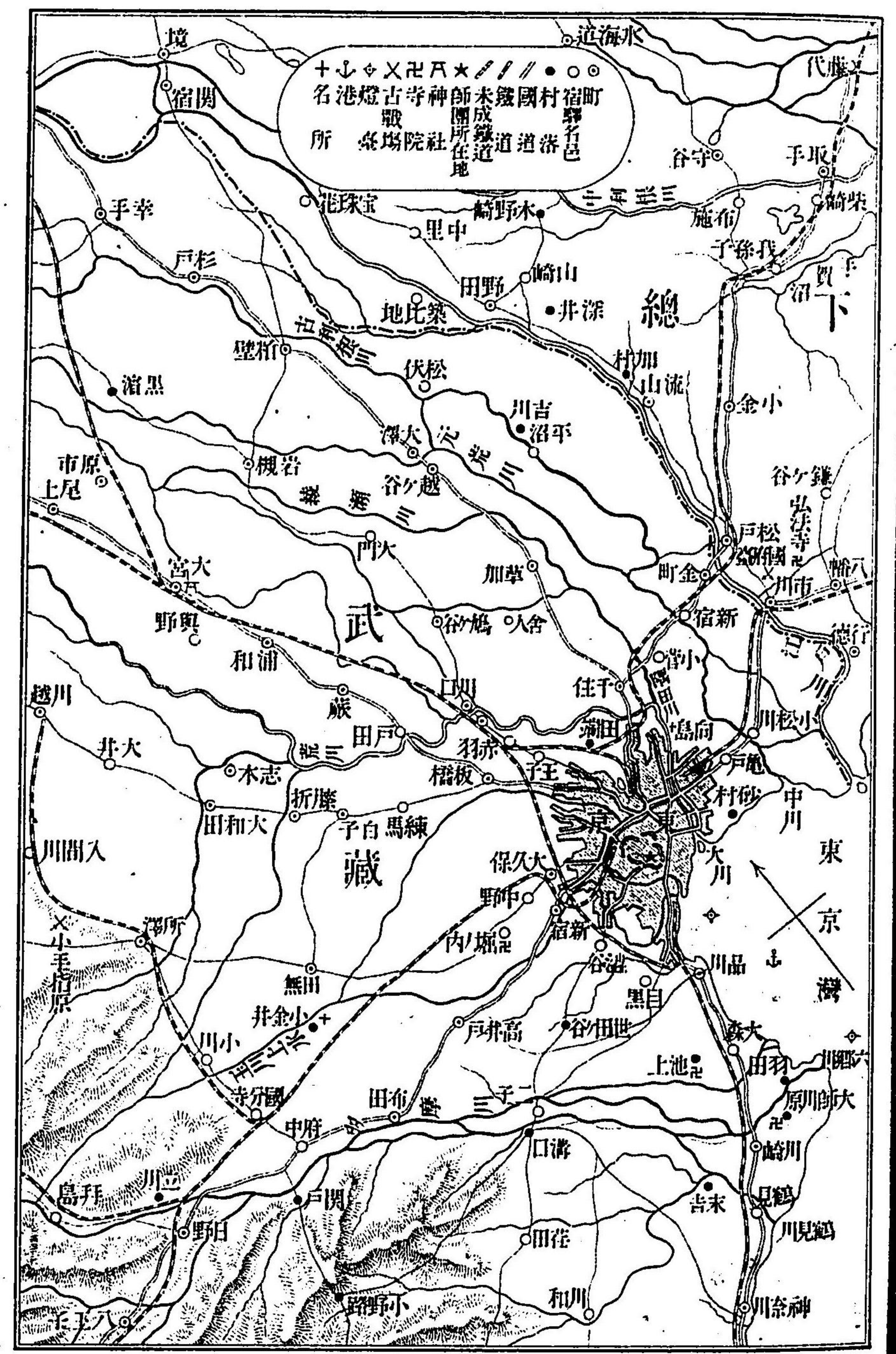
東海道、奥羽街道及び奥羽濱街道に沿ふて布設せられ。又中仙道の一部に沿へ越後に貫通する横斷線、及び水戸線、兩毛線、日光線、八王子線、川越線、横須賀線、銚子線等の小線路數多あり

東京府

東京府は關東平原の南部を占め、南は東京灣に濱し、北は關東平原に連なり、荒川、多摩川は其東西に流れ、西方甲斐の境上に關東山脈重疊せり。此地は古來武藏野と稱し、荒漠卑濕の地なりしも、今は帝都の所在地にして、本邦中最も樞要なる所となれり。其管轄區域は武藏の八郡、荏原、西多摩、南多摩、北多摩、豊多摩、北豊島、南足立、伊豆七島、大島、利島、新島、神津島、及び小笠原群島、硫

黄島にして、府廳は東京市に在り。

東京市は帝國の首府にして、關東平原の南部、武藏の東隅に
位し、隅田川其東邊を流れ、南は東京灣に臨み、他の三方は平
野遠く連り、地勢頗る平坦にして、所謂四通八達之地なり。市
の廣袤は東西凡三里、南北凡四里にして、市坊約一千、人口百
四十万に餘れり。全市を分ちて、麴町、神田、日本橋、京橋、芝、麻布、
赤坂、四谷、牛込、小石川、本郷、下谷、淺草、本所、深川の十五區とす。
世俗之を山ノ手、下町の二部に大別す。山ノ手は高燥幽雅に
して、眺望に富み、顯貴の邸宅多く、下町は卑濕平坦にして、海
岸に近く、商賈の店舖櫛比せり。就中銀座通、日本橋通は最も
繁盛の所にして、車馬の往來織るが如し。宮城は山ノ手中、下



町に接する市の中央に位し、繞らすに城壁、隍渠を以てし、蔚
鬱たる老松は長へに宮闕を擁護し、翠色滴たらんとす。
中央政府の諸官省、國會議事院等は宮城の周圍に散在し、又
學藝の淵源たる帝國大學を始め、高等師範學校、高等學校等
各種の學校皆此地に集合す。其他經濟機關の中樞たる日本
銀行、海運の主動たる郵船會社等亦此地に在り。街衢は廣濶
にして坦々砥の如く、加ふるに馬車鐵道の設けありて、車馬
絡繹行人織るが如く、電話、電信、電燈の諸線縱横空間に掛り、
宛も蛛網の如く、實に全市の股脈なる譬ふるに物なく、文明
の事業は一として具備せざるなし。交通の便に至ては、道路
は所謂四宿(品川、新宿、板橋、千住)を経て四方に通ずる大幹線

の起點となり、鐵道は東海道へは新橋より、東北、北陸及び常磐へは上野より、西武へは飯田町より、兩總へは本所より四通じ。又海には東京灣内の各港に通ずる汽船便あり、故に此地は關東八州、中山道及び奥羽地方の物産を集散するのみならず、横濱港より輸入する物品も亦此地を経て散ずるもの多ければ、商業極めて盛なり。市の物産は吾妻錦繪、淺草海苔、紫染筆、煙管、袋物等、其他各種の裝飾品を以て、舊來の物産とし、近年煉瓦、燐寸、抄紙、石鹼、セメント、諸器械の製造漸次盛大に赴けり。

本市は三百餘年前太田道灌が始めて城を築きし後、徳川家康、覇府を開き、大小の諸侯伯皆を此に邸宅を設け、始めて其繁榮を見るに至れり。當時此地を江戸と稱せしが、明治二年遷都の事あり、皇居を此に奠め給ふに及び、其稱を東京と改め、今や益々繁盛を加へ、世界屈指の大都會たるに愧ぢざるに至れり。

東京より甲武鐵道に乗り、西行すれば八王子町に達す。八王子は織物業の中心にして、一樂織、風通織等の絹織物を産す。八王子の東北、羽村より長渠を築き、多摩川の水流を引けるもの、即ち多摩川上水にして、東京全市民の飲料に供するものなり。其兩側に小金井の觀櫻地あり。又其近傍には國分寺の古刹あり。石灰及び綿糸の産地なる青梅は其北にあり。東北鐵道に乗り、上野より北行すれば抄紙の製造盛んなる

王子に到るべし。此地は都人士が遊覽の所にして、近傍飛鳥山の櫻花、瀧ノ川の紅葉は共に有名なり。王子より尙ほ北行すれば荒川の沿岸に達すべし。此川は東京の東に至り隅田川と稱す。其左岸は即ち向島にして長堤一路、櫻花を以て名あり。

西南新橋より東海道鐵道に乗ずれば、海苔の名産地なる大森を過ぎ六郷川に達す。六郷川は鮎の名産ある多摩川の下流にして本府と神奈川縣との境界なり。是より上流二里にして矢口ノ渡あり、舊時新田義興の戦死せし所にして、其靈を祭れる新田神社あり。

豆南七島は伊豆の南方大平洋中に散布せる諸島にして、大島最も近く八丈島最も遠し。大島には三原山なる活火山ありて四時煙を噴き、八丈島には八丈絹、八丈紬の名産あり。利島、新島、式根島、新島の屬島、神津島、御倉島は前二島の間、に羅列せり。又八丈島と御倉島との間には有名なる黒瀨川ありて潮流甚だ急なり。小笠原群島は遙かに八丈島の南方に位置し、大小數多の島嶼より成れり。父島、母島、其最たるものにして、兄島、弟島、姉島、妹島、聳島、媳島等の諸島あり。本島は亞熱帯地方なるを以て椰樹、鳳梨等の陸産、鱣、鯨、蟳、龜等の海産あり。硫黄島は更に其南方に在りて、硫黄島、北硫黄島、南硫黄島の三島より成れり。

神奈川縣

本縣は東南、一帯海灣に面し西北、關東山脈を負ひ、北は關東平原に連なり、西は函嶺の險を控へ、海岸の中央には三浦半島の南方に突出するありて東京灣口を扼し、實に景勝の地位を占めたり。其管轄區域は武藏の一市三郡横濱市、久良及岐橋、樹都筑及び相模一圓上三浦、鎌倉、高座、中足柄、下愛甲、津久井にして、縣廳は横濱市に在り

横濱市は本邦第一の開港場にして、前は東京灣に臨み、背後に一帯の丘陵を負ひ、本牧岬は其東南を擁し、東北に横濱灣を控へて神奈川町に接せり。廣袤大約一方里、人口十九万を有し、内外の船舶常に輻湊し、貿易最も繁盛なり。其輸出品の主なるものは生糸、茶、羽二重、銅、雜貨等にして、輸入品の主なるものは棉花、砂糖、石油、毛布、機械、雜貨等なり。今之を全國の輸出入に比すれば大約五割に近しと云ふ

此地四十年前までは寂寥たる一漁村なりしが、其開港場となりし以來日に月に殷賑を加へ、正金銀行、税關及び各條約國の領事館等ありて、東洋稀有の要港たるに至れり。本市の北隣神奈川町は、東海道の一驛にして、地方の一小港たり、我開港史上有名なる地なり。又本市より海岸に沿ひ南行すれば金澤、文庫の舊蹟と、金澤八景を以て有名なる金澤あり。其南方、海灣の屈曲する處に一港あり、之を第一海軍區の鎮守府ある横須賀とす。灣内水深く大艦巨舶を容るゝに足るべき良港にして、巨大なる造船所あり。又其南方には浦

賀港あり、曾て米艦の初めて渡來せし地なるを以て有名な
り。其東端に觀音崎あり、上總の富津崎と相對し、東京灣の咽
喉を扼する海防上無比の要地なるを以て砲臺の設あり。此
地より尙ほ南行すれば、三浦半島の突角に三崎あり。此地は
海産の豊富なると、帝國大學の臨海實驗所あるを以て名
を知らる

三崎より海岸に沿ひ北行すれば鎌倉あり。此地は往昔源頼
朝が覇府を開きし所にして、歴史上著名なる事蹟多ければ
名勝故蹟に乏しからず。今其一二を擧げんに鶴岡八幡宮、大
塔宮の土窟、建長寺、長谷觀音、大佛等あり。又其海岸には由井
ヶ濱、稻村ヶ崎、七里ヶ濱、江ノ島等の名勝あり。此地より尙ほ

西すれば藤澤、大磯を経て小田原町に至る。此地は後北條氏
が關東に覇を稱せし所にして、今尙ほ地方の一都會たり。梅
干、鹽辛を産す。其北方には煙草の産地なる秦野町あり。又其
西方には關東の鎖鑰たる箱根山峻嶺あり

箱根山は有名なる死火山にして、駒ヶ岳、二子山、金時山、明星ヶ嶽等の數多
の山嶺より成れり。其山上には往古の噴火口の一部たる蘆ノ湖あり。水光
鏡の如く清鮮掬すべく、前面には富士の秀麗なるあり、景色絶佳、人をして
歸るを忘れしむ。又此山中には諸所に温泉を噴出し、來浴するもの多く箱
根七湯の名あり。往昔此山上に關門ありて東西を區別せり。今日東國地方
に關東の名あるは之に因するなり

埼玉縣

本縣は西方に關東山脈の諸山重疊し、東部一帯は荒川の灌

域にして關東平原の一部を爲せり。其管轄區域は武蔵九郡

北足立、入間、比企、見玉、秩父、大里、南埼玉、北埼玉、北葛飾にして、縣廳は浦和町に在り

浦和町は東北鐵道の線路に當り、東京の北方僅に十三哩の地に在り、此近傍に青縞を産す

浦和より北行すれば大宮あり。此地には大宮公園あり。都人

士の行遊するもの多し。是より中仙道線路に沿ひ西北に向

へば熊谷の名邑あり。此地の西南は秩父地方にして、生糸商

業の中心たる大宮あり。此近傍には武甲、三峯の諸山聳ゆる

を以て木材薪炭に富めり。皆荒川を利用して東京に送る。又

浦和の西北に甘藷の名産地たる川越あり。尙ほ西すれば所

澤及び飯能あり、共に機織の業を以て名あり

千葉縣

本縣中下總は利根川の灌域にして、關東平原の最低部なり。

房總半島には其中央を横斷する房總山脈あり。其管轄區域

は下總六郡千葉、東葛飾、印旛、香取、海上、匝瑳上總市原、長生、山武、君津、夷隅安房安房、二國に

して、縣廳は千葉町に在り

千葉町は西方、東京灣に臨み、房總鐵道の起點地にして、人口

二万六千餘を有す。此地に第一高等學校の醫學部あり

千葉より總武鐵道に乗じて東北に進めば、陸軍の演習地な

る習志野を経て、第二旅團の所在地なる佐倉町に至る。此地

の北方に印幡沼あり、佐倉炭と稱する木炭は此地の近傍よ

り産出す。是より更に東北に向へば不動尊を以て有名なる

城田町あり。尙ほ東して利根川の沿岸に出づれば釀酒を以て著はる、佐原に到るべし。此地は本邦地學の鼻祖として敬慕さる、伊能忠敬翁の郷土なり。其近傍には古來有名の靈社なる香取神社あり。銚子町は此地の東南利根河口に在り。各地に舟行の便あるを以て船舶輻輳し商業頗る盛んなり。銚子縮及び醤油は其産物として著名なり。銚子町の東に突出する海角は犬吠ヶ岬にして燈臺の設置あり。同岬より西南上總の大東岬に至る一帯の海岸は所謂九十九里濱なり。此濱は鱸魚を以て有名なり。是より西南安房の小湊は僧日蓮の誕生地にして誕生寺なる巨刹あり。更に海岸に沿ひ野島岬を過ぐれば館山及び北條等の名邑あり。

り。是より北行し房總の堺に到れば山嶺鋸齒状を爲せる鋸山あり。其北には眺望に富める鹿野山あり。富津崎も亦此近傍にして相模の觀音崎と相對する砲臺あり。此北方木更津は東京灣に面する上總の要津なり。

本縣の東境江戸川の沿岸市川町の近傍に北條里見の古戰場たる國府臺あり。今日は陸軍教導團の所在地たり。此川の沿岸なる野田は醤油を以て、流山は味淋を以て有名なり。

茨城縣

本縣は關八州の東端に位し、北方には阿武隈山脈の南部なる筑波加波の山嶽鬱結し、南方一帯は關東平原の一部にして沃野遠く連れり。其管轄區域は常陸一圓水戸市、東茨城、西茨城、久慈、多賀、那

河鹿島行方稻敷 及び下總三郡結城猿島にして縣廳は水戸
新治筑波眞壁 市に在り

頁六

水戸市は那珂川に臨み南に千幡沼を控へ人口三万二千餘
あり。關東々端の物貨集散地たり。此地は奥羽濱街道の要衝
に當るを以て徳川氏は其親藩をして居城せしめたる處に
して有名なる弘道館及び偕樂園ありて尙ほ舊模を存せり。
偕樂園は本邦有數の公園地たり。又此地の煙草は頗る著名
にして水戸煙草の名世に噴々たり

水戸より鐵道により濱街道を北行すれば平潟港に出づ。更
に進めば勿來關の舊趾あり。是れ福島縣との境界なり。又水
戸より鐵道にて西行すれば笠間及び下館の名邑を経て結

城紬を以て有名なる結城町に至る。其西南利根川の沿岸に
は古河町あり。更に又水戸より南行すれば常磐鐵道の線路
に當り石岡土浦等の名邑あり。土浦は東方霞ヶ浦に瀕し商
業頗る盛んなり。霞ヶ浦は其周圍琵琶湖の半ばにして本邦
第二の大湖なり。東南北浦と通ずる所に潮來あり古來より
有名なる湖岸の要津なり。北浦の東方に鹿島神社あり。本邦
有數の大社にして境内に名勝多し

栃木縣

本縣は東北西の三方に山巒重疊し中央及び南方は平坦に
して關東平原の一部を爲し那珂川鬼怒川縱横に貫流せり。
其管轄區域は下野宇都宮市河内芳賀那須鹽一圓にして縣

頁七

廳は宇都宮市に在り

宇都宮市は東北鐵道及び日光鐵道の要路に當り、人口三万五千を有し、縣下の各郡より生ずる物産の集散地にして頗ぶる繁盛なり。徳川氏の治世に於ては要衝の地たるを以て腹心の侯伯をして之に居城せしめたり

宇都宮より日光線に乗じ西すれば麻の産地なる鹿沼を過ぎ、更に北して今市に達すべし。是より山路を登る少許にして日光に到る。日光は古來有名の地にして東照宮の祠廟あり、其結構の壯麗全國其比を見ず。此地日光塗の産あり。又其近傍の足尾銅山は規模廣大にして採掘高本邦第一とす

日光山は男體山、白根山等の諸山を總稱せしものにして一山彙を爲せり。

男躰山は其最高なるもにして、直立八千二百尺に達す。山麓に中禪寺湖一名中宮洞湖あり、湖邊の景色幽邃閑雅にして愛すべし。此水は溢れて華嚴の瀑となり、山間を迂回して鬼怒川に入る。此他霧降瀑、裏見瀑等數多の瀑布あるを以て俗に四十八瀑の稱あり。又山中には蒼鬱たる古杉、老檜雲を凌ぐを以て良材の産出あり

宇都宮より東北線に沿ひ北すれば黒磯あり。此近傍は那須山の南麓にして、古來那須野と稱する地なり。鹽原鑛泉等あり、且つ薪炭の産に豊かなり。又宇都宮より東方鬼怒川を渡れば白木綿の産地なる眞岡あり。此地の東南に當れる小山は東北、兩毛及び水戸の三鐵道線の會合する所にして、漸次繁盛に赴けり。此西北に栃木あり、宇都宮に次げる都會にして、麻、生糸等の産あり。此地より西すれば木綿織物及び鑄物

の産ある佐野を過ぎ、足利に到るべし。足利は織物の中心地たるを以て殊に有名なり。往昔小野篁が創設せし足利學校の舊蹟今尚ほ此地に存せり

群馬縣

本縣は北境に岩木火山脈に屬する淺間、吾妻、白根の諸山あり、東境に白根、庚申、足尾の諸山あり、且國中には那須火山脈横斷して赤城、榛名の諸山を起すを以て峻險なる山岳多し。唯南東利根川上流の灌域は關東平野の一部にして土地肥沃なり。其管轄區域は上野一圓前橋市、東勢多、西群馬、多野、北山田、にして、縣廳は前橋市に在り

前橋市は利根川の上流に臨み、人口三万一千を有し、鐵道交

通の便を占め、生絲商業の大市場にして、市況甚だ繁盛なり。前橋の東南、兩毛線の沿道に伊勢崎縞を以て有名なる伊勢崎あり。又羽二重、縮緬、繻子等各種の絹織物の産地として著名なる桐生は渡良瀬川の沿岸、栃木縣の境に在り。此地の近傍太田の金山は新田氏の城趾にして、今其靈を祀れり。館林の名邑も亦此東南に在り

前橋の西南數里にして中仙道の要路に當り、高崎市あり。高崎は人口三万に近く、第一師團の分營あり、生絲の製造甚だ盛んなり。是より西に安中の名邑あり。此近傍に磯部鑛泉あり。其南には製糸場を以て有名なる富岡あり。又其西には妙義山あり。妙義山は奇嚴怪石山中に峙ち中腹に洞門あり。此

山と高崎の西北なる榛名山及び前橋の東北なる赤城山とを合して上州三山と稱す。中仙道線は其北麓を過ぎて碓氷峠に出づ。碓氷峠は往昔日本武尊の吾嬬也と嘆じ給ひし故蹟にして、箱根山と東西相對峙し關東の境界を爲せり。本縣は諸所に温泉あり殊に榛名山麓の伊香保温泉及び吾妻山麓の草津温泉は共に有名なる温泉にして浴客四時群集せり。

山梨縣

本縣は西方に赤石山脈の駒ヶ岳、白根、七面、身延の諸山連続し、東方に關東山脈の諸山あり、南北は富士帶に屬する富士峯、八ヶ岳等ありて連山四境を繞り、中央の窪地は平原を爲

し宛も別天地を爲せり。其管轄區域は甲斐一圓甲府市、西、山梨、東、山梨、東八代、南巨摩、中巨摩、北巨摩、南都留、北都留にして縣廳は甲府市に在り。

甲府市は國の中央平原に在りて人口三万五千、生糸の中央市場なるを以て市況殷盛なり。此地武田氏が割據して四隣に威を振ひし所なり。甲府より東すれば葡萄の産地たる勝沼あり。是より尙ほ東して武田氏滅亡の古戰場たる天目山の南方を過ぎ、其縣界に到れば猿橋驛あり。此地には奇工を以て名ある猿橋あり、此近傍都留郡一圓は郡内と稱し甲斐絹、郡内織の産地なり。

又甲府の北方に峙つ金峯山の近傍は多く水晶を産す。其西南には御嶽山あり、金櫻神社を祭れり。是より更に西すれば

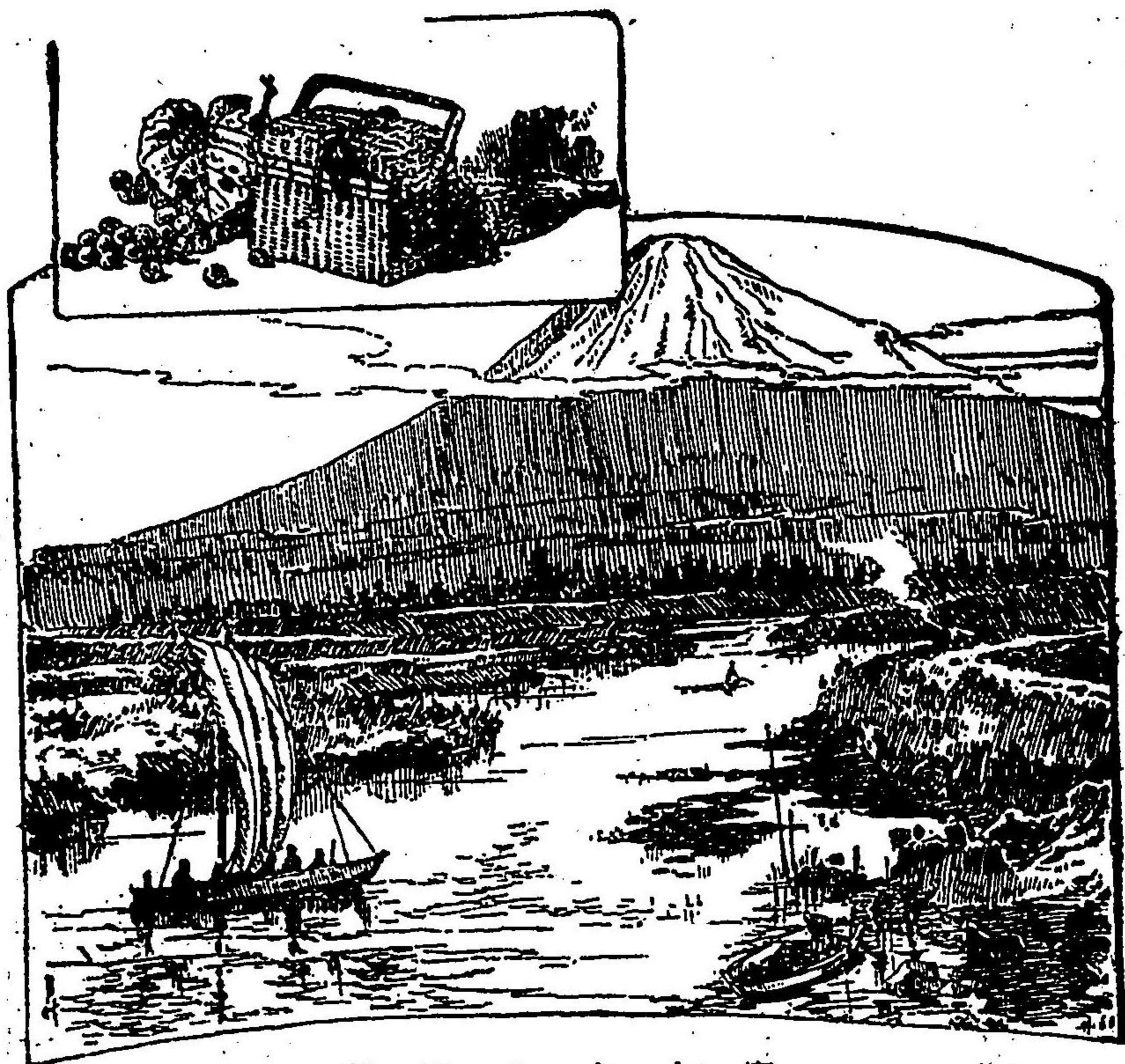
韮崎の名邑あり。此地の近傍を流る、釜無川其他笛吹川等甲斐平原中の諸川は合して富士川となり南流す。此沿岸には駿河に下るべき行舟の要津たる鵜澤あり。是より南方國境に聳ゆる身延山は日蓮宗の本山なる弘遠寺の所在地として有名なり

静岡縣

本縣は東北に富士帶の諸山蟠崛起、西方に赤石山脈の群嶺連亘し、東南には伊豆半島長く太平洋中に突出せり。又其海岸に面する地は平坦にして、中央に駿河灣を擁し、風光明媚なる地多し。其管轄區域は駿河静岡市、駿東、富士、遠江、榛原、小笠原、笠原、周智二國及び伊豆二郡田方、加茂にして、縣廳は静岡市に在り

静岡市は駿府又府中と稱し、往時徳川家康が退隱せし所なり、人口三万九千を有し、東京と京都の間に於て名古屋市と東西相對して東海道の要區たり。且つ駿遠各地より出づる製茶の中心點たるを以て、市況頗ぶる繁盛なり。又漆器、竹細工等の産あり

静岡の東方海岸に清水港あり、本港は特別輸出港の一にして、現時商業上の要港たり。有名の勝地たる三保の松原は本港の東岸にして、次能山は其西方に在り。又静岡より東海道線に沿ひ東行すれば、興津、綱を以て名ある興津あり。尙ほ東して富士川を渡り吉原を経て沼津に到るべし。沼津は氣候溫和にして眺望に富めるを以て御用邸あり、都人士の別業



富士山眺望

亦多し。此地と吉原との中間は、仰ては富士の靈峰を望み、俯しては田子浦を臨むべく、古來絶景を以て賞せらるゝ地なり

富士峯は甲駿二國に跨がり東海の大鎮と稱せらるゝ本邦第一の名山にして、海面を抜くこと實に一万二千四百餘尺、其壯麗美麗なる人をし

て形容の辭に窮せしむるものあり。此峯は富士帶火山脈に屬する休火山にして、絶頂の舊火山口壁は今や分れて駒ヶ嶽、三島嶽、劔ヶ峯、白山嶽、久須志嶽、豆山嶽、成就嶽、淺間ヶ嶽の八峯となる。之を富士の八峯と稱す。又此中腹には寶永山あり、寶永年代に噴火せし舊跡なり。山中には胎内寶、銀明水等數多の名所あり。夏日消雪の候を期し登山するもの多し。

沼津の東方三島町は伊豆北邊の一都會にして、三島神社の大祠あり。其東南韭山も亦一名邑にして近傍に修善寺の温泉あり。是より尙ほ南すれば良材に富める天城山の西麓を過ぎ、下田港に至るべし。此地は米使ペルリの來航せし所にして、我開港史上に有名なり。其近傍なる石廊岬は即ち伊豆の南端にして、遠江の御前崎と相對して共に燈臺の設けあり。是より伊豆の東海岸を北行すれば相模の境に近く熱

海あり。此地は晝夜六回熱湯を噴出する間歇温泉を以て有名なり、四時浴客多し。

又静岡より鐵道に沿ひ西行すれば駿遠の境を流るゝ大井川あり。是より掛川見附を経、東海道第一の長流なる天龍川を渡れば濱松に達すべし。濱松は往時徳川家康の居城せし處にて、東西兩京の中央に位し、遠江第一の都會なり。此北方には三方ヶ原の古戰場あり。西方には濱名湖あり。濱名湖は往時地震の爲め決潰し海水と通ずるに至れり、此湖口を稱して今切と云ふ。

長野縣

本縣は境界十州に跨がる大國たる信濃の地にして、本邦第

一の高隆地なり。故に三國關東の二山脈は其東邊を擁し、飛驒山脈は其西境を畫し、富士、赤石、木曾の諸山脈は南北境界及び國內に蟠嶮し、最も峻險を極め、千曲川、犀川、木曾川、天龍川其間に蜿蜒貫流すれば地味概ね豊饒なり。其管轄區域は信濃一圓長野市、北佐久、南佐久、小縣、埴科、更級、上水内、下水内、上伊那、下伊那にして、縣廳は長野市に在り。

長野市は直江津鐵道の要衝に位し有名なる善光寺の大伽藍あり。人口二万九千、本縣第一の都會なり。此地の近傍は地勢平坦なるも四方山岳を以て圍繞すれば寒暑の差、殊に甚し。此地の南方千曲川と犀川との合流する所を川中島と云ふ、武田、上杉兩氏の古戰場なり。其東南なる松代は佐久間象

山の生地にして、觀月に名ある姨捨山は其西南に在り。是より鐵路を南に進めば上田、縞を以て名ある上田あり。市況甚だ活潑なり。更に鐵路を進めば小諸を経、淺間の活火山を左に望み上野の國境なる碓氷峠に達すべし。

又長野より南行し本縣の中央松本平に達すれば松本に到るべし。松本は長野に次ぐ都會にして蠶業盛んに行はれ信濃南部の集散地たり。其南方鹽尻峠を過ぐれば本縣第一の生糸出產地にして、温泉を以て名ある上諏訪に達す。此地に天龍川の水源たる諏訪湖あり、冬期は湖面氷結し人馬氷上を往來すべし。是より天龍川に沿ひ南行すれば參遠街道の中心たる飯田に到るべし。此地氣候温暖にして植物に適し

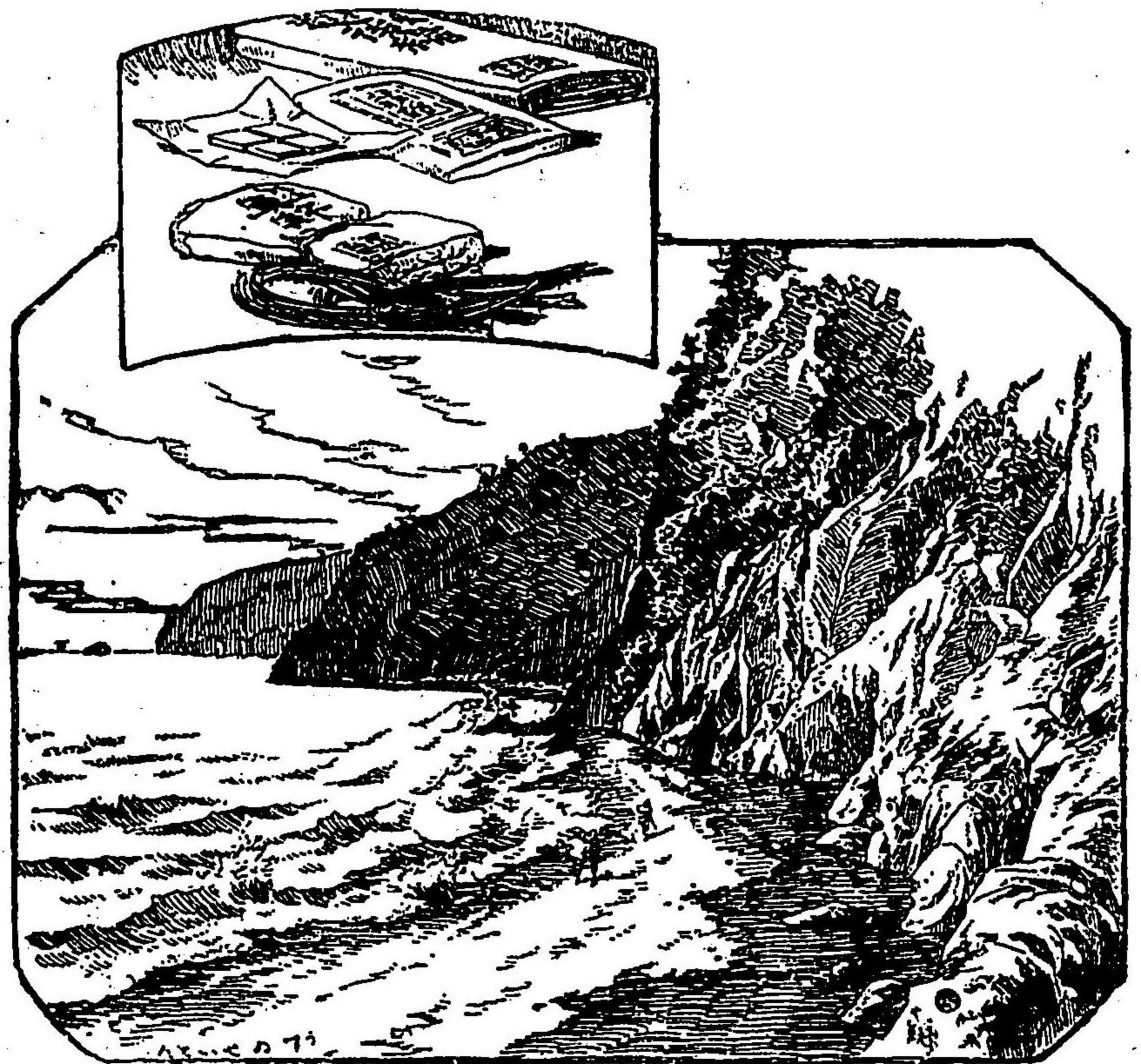
蠶業亦盛んなり。其主産物は元結、漆器、傘等なり。更に轉じて木曾街道に出づれば山中の小都會なる福島あり。此邊は木曾川上流の灌域にして有名なる御料林たる木曾森林あり。て檜、樺等の良材を産す。所謂木曾棧道とは此近傍を稱するものにして、山谷峻險、人烟稀薄なり。此邊に又木曾駒と稱する良馬を産す。

又更に長野より信濃川に沿ひ東北行すれば其沿岸に須坂、飯山等の名邑あり。皆蠶業を以て名あり。就中須坂は諏訪に亞ぐ製糸業繁盛の地なり。此他本縣に於て著名なる物産は蕎麥、硫黃等なり。

新潟縣

本縣は東南西の三境は數多の山脈を以て限られ、西方一面日本海に濱せり。故に國內山岳の蟠踞するもの少なからずと雖ども、信濃、阿賀兩川の汪流する地方は廣濶なる沃野を爲せり。其管轄區域は越後新潟市、北蒲原、中蒲原、西蒲原、南蒲原、沼羽、東頸城、中頸城、三島佐渡北魚沼、南魚沼、中魚沼、西頸城、岩船兩國にして縣廳は新潟市に在り。新潟市は信濃川の河口に臨み人口五万を有し普通貿易港の一なるも、近來泥砂河口に堆積し船舶の碇泊に不便なるを以て、貿易振はざるに至れり。然れども尙ほ縣下商業の中心にして日本海の要港たり。此地漆器の産あり。新潟より東行すれば第二師團分營の所在地にして、石油の産地たる新發田に達す。此地より北して中條、村上等の名邑

を過ぎ、北國街道を北行すれば羽前の鶴岡に達すべし。又新潟より北越線に乗じ南行すれば村松を過ぎ、綿布の産地なる三條に到るべし。此地の近傍には五泉、平と稱する袴地を産する五泉、栃尾、紬を以て知られたる栃尾あり。三條より尙ほ南行すれば長岡あり。長岡は縣の中央に位し新潟と日々小汽船の往復あり。此地絹織物、鑄物を産し商業繁盛なり。更に尙ほ南行すれば信濃川沿岸に小千谷及び十日町の名邑あり。此地方に産する越後上布は夙に世に名あり。更に又新潟より海岸に沿ひ西南に進めば、彌彦山の東麓を過ぎ、寺泊及び出雲崎に出づ。此地は共に佐渡に渡航すべき要津なり。是より尙ほ進んで柏崎を経て直江津港に到るべし。



親不知の險

百二十四
 し。直江津は北越鐵道と官設鐵道との連絡地に在り、本縣南方の要港たり。此地の南方高田町は木綿紡績の業盛んにして、高田、給の産あり。此地山間の平地なるを以て、冬期積雪丈餘に達することあり。又西方に

は上杉謙信の城趾ある春日山あり。是より西南越中に至るの地は妙高山、燒山等の諸山岳重疊し、又其海岸越中の國境に近く有名なる親不知の險あり。通行甚だ艱難なりしが今は其斷崖を開鑿し新道を通じたり。

佐渡の小木港は越後の出雲崎より海上二十四湮にして達すべし。此地より西岸を北行すれば新町に出づ。此地の近傍眞野村の山中には順德天皇の御陵あり。更に海岸に沿ひ北すれば島中第一の都會にして、無名異燒の産地なる相川あり。此地の東北に峙ゆる金北山は古來より金銀の産出夥しきを以て名あり。相川の東方夷町は佐渡の要津にして此地より新瀉に航するに海上僅に三十二湮なり

東北地方

東北地方は本州の最北に位し、東北西の三面は海に濱し、南方の一面のみ中央東部地方に接續せり。其疆域は東山道中奥羽地方の全部を包轄し、面積四千二百四十八方里、人口四百六十六万七千餘を有す。今其國名及び縣名を擧ぐれば左の如し

國名

磐城 岩代 陸前 陸中 陸奥 羽前 羽後

縣名

福島縣 宮城縣 岩手縣 青森縣 秋田縣 山形縣

地勢 東北地方は樺太山系の鬱結する地にして其中央に

は南北に貫通する中央分水山脈あり。此脈は地勢を東西二斜面に分割せり

東方斜面は北部に北上山脈あり、南部に阿武隈山脈あるを以て、域内山巒に乏しからずと雖ども、此二山脈の中間にして北上、阿武隈二大河の貫流する地方は、所謂奥の平野にして田園遠く連なり、本邦有數の農産地なり

西方斜面も亦岩木火山脈の域内を貫通するを以て山巒の蟠廻するものなきにあらざるも、最上川、御物川、能代川、岩木川の灌域は皆な狹長なる平原を爲し亦重要な農産に乏しからず

産物 東北地方の産物は其主たるもの農産にして鑛産、林

産畜産海産皆な備はれり。其一二を擧ぐれば米は宮城山形秋田の三縣に産額多く、麥は陸前に産し、養蠶は福島縣最も盛んなり。岩手福島宮城に馬を産すること多く、牛は陸中より出づ。又林産は青森秋田を稱し、鑛産は金銀鐵銅鉛石炭硫黃等各地に産し、鯉鱈鮪鱈鮑鳥賊等の海産物は沿海地方に饒多なり。

交通 東北地方の交通路は中央東部地方と連絡するものにて、奥羽街道は下野より、奥羽濱街道は常陸より、北陸街道は越後より共に此地域に入り、交通の大幹線を爲せり。鐵道線路は概して奥羽街道及び奥羽濱街道に沿ふて布設せられ、又福島縣より兩羽の地を経て青森縣に至る一線路あり。

目下布設中なるも已に竣功せる所あり

福島縣

本縣は西南兩境に岩木帝釋の二山脈あり。域内には中央分水山脈及び阿武隈山脈に屬する諸山各所に起伏し、到る處山岳錯綜するも、阿武隈阿賀兩川の灌域は平坦にして、地味概して肥沃なり。其管轄區域は岩代一圓信夫安達安積岩瀬南會津北會津耶麻河沼磐城の七郡東白川西白河石川にして、縣廳は福島町に在り。

福島町は東北鐵道の要衝に當り、人口一万八千を有し、蠶業の中心點として商業甚だ盛んなり。此地の西方には吾妻山あり、又其西南に磐梯山あり、共に有名なる活火山にして、時

々猛烈なる噴出を逞ふすることあり。磐梯山の南麓なる猪苗代湖は周圍十六里の大湖にして、湖上漁船の往復あり。其西方若松市は會津平原の中央に位し、人口二万五千を有し。會津塗、會津蠟燭の産地なり。此地會津侯の居城ありしを以て、戊辰戦役に於て有名なる地たり。若松より東方猪苗代湖畔を過ぐれば、奥羽街道の郡山に出づ。此地と福島との間に二本松の名邑あり。又此地の東方には三春駒を以て有名なる三春あり。更に郡山より須賀川を経て南行すれば、白河に達す。此地は戊辰戦役の激戦地にして、往昔華夷の境界として設けたる白河の關門ありし所なり。其關趾は町の東南に在り。是より久慈川の上流に沿ひ、棚

倉の名邑を過ぐれば、水戸市に出づるの街道あり。又福島より東行して磐城、岩代兩國の境界に到れば、靈山あり。靈山は北畠顯家の居城ありし地にして、同氏を祭れる靈山神社あり。是より尙ほ東すれば、相馬焼を以て名ある中村に到るべし。此地の南方平町に至るの地は海岸一帯漁獲の利に富み、山中には石炭の産甚だ多し。平より尙ほ南すれば常陸の國境たる勿來關に達すべし。此近傍小名濱も亦有名なる漁場にして、製鹽の地たり。

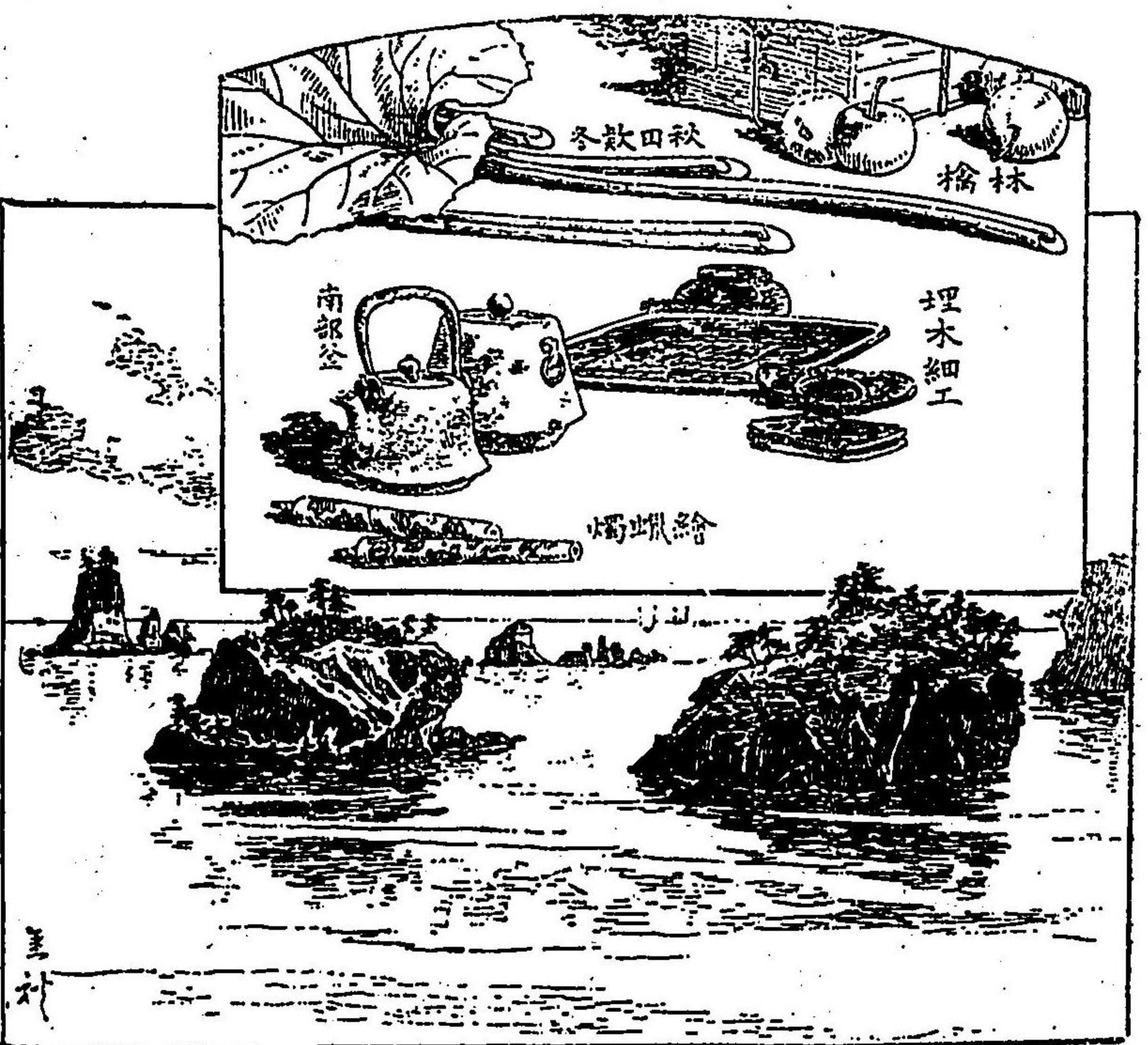
宮城縣

本縣は西境に中央分水山脈ありて連亘し、北上、阿武隈兩大河は縦谷を爲して南北より此地に來り、一大沃野を形成す。

之を仙臺平原と爲す。古來宮城野と稱せしものは是れなり。其管轄區域は陸前の一市十三郡仙臺市、柴田、宮城、名取、黒川、加美、志田、玉造、遠田、栗原、登米、桃生、牡鹿、本吉。及び磐城三郡刈田、亙理、伊にして、縣廳は仙臺市に在り。仙臺市は伊達氏の舊城地にして、人口七万五千を有し、第二師團司令部、第二高等學校、控訴院等ありて、東北地方第一の都會なり。此市に青葉城趾、躑躅ヶ岡等の名所あり。仙臺平、八橋織埋木細工等の名産あり。仙臺の東北濱海の地に鹽竈あり。此地は製鹽の業盛んにして、鹽竈神社あり。是より更に北行すれば海岸深く屈曲して一灣を爲せり。之を松島灣と云ふ。灣内に無數の島嶼碁布散點し、島上皆な青松を戴く、其風光の美本邦に比類少なきを

以て、日本三景の一として稱せらる

松島は元來海岸に沼澤を有する地なりしに、其地質脆弱なるが爲め、多年波浪の浸蝕破壊する所となり、沼澤は變じて内灣を爲し、海濱は化して島嶼を形成するに至りしものにして、灣内の島嶼皆な其形容を異にし、千態万狀一々指顧に違まあらざるものあり。古人の衆美松洲に歸すと稱せしもの亦故なきにあ



松島景

らず。天公の奇を弄する此に至りて極まれりと云ふべし

松島の東方海岸に野蒜、石の巻、荻ノ濱あり、皆縣下の要津なり。殊に石の巻は北上河口に位するを以て、商業頗ぶる繁盛なり。又牡鹿半島の南端に金華山あり海中の一孤山なるを以て眺望甚だ壯快なり

又仙臺より南方、東北鐵道と常磐鐵道の結合點なる岩沼を経て、福島縣界に近く白石あり。此地は蠶業及び絹織物を以て著名なり。更に轉じて本縣の西北羽前の境界に近き鍛冶屋澤は軍馬育成所あるを以て知られたり

岩手縣

本縣は西境に中央分水山脈あり、東方に北上山脈ありて、蜿

蜒域内に連續するも、北上河の灌域は其中央を縦貫し、茫々たる沃野を爲せり。其管轄區域は陸中の一市十一郡盛岡市、南巖手、紫波、稗貫、東和、膽澤、江刺、西磐井、東磐井、上閉伊、下閉伊、南九戸陸前一郡氣及び陸奥一郡二戸にして、縣廳は盛岡市に在り

盛岡市は北上川の上流に位し、東北鐵道の線路に當り、人口三万二千餘を有す。生糸、絹布及び南部鐵瓶等の産あり。又其近傍には安部貞任の據りしを以て有名なる厨川の柵趾あり。此地の南なる水澤の近傍には往昔の鎮守府趾あり。尙ほ南して縣界に近く一の關あり、養蠶の業甚だ盛んなり。又盛岡より北行すれば西方に岩手山を望み、沼宮内、一戸を過ぎ北境に達すべし

又本縣の沿海には釜石宮古の二港あり。共に良港を以て著はる。殊に釜石は近傍に仙人鐵山あるを以て有名なり。

青森縣

本縣は本州の極北に位し東北西の三方海に面し、津輕海峽を隔て、北州と相對する所に、津輕下北二半島ありて陸奥灣を擁せり。灣内別に一小半島あり之を夏泊半島と云ひ青森野邊地の二灣を分割せり。又中央分水山脈及び岩木火山脈は南北に連亘し其支脈域内に縱横せり。其管轄區域は陸奥の二市八郡青森市、弘前市、東津輕、西津輕、中津輕、南津輕、北津輕、上北、下北、三戸にして、縣廳は青森市に在り。

青森市は青森灣に臨み、東北鐵道の最終點に當り、人口二万

六千を有せり。此地より東京及び箱館に漁船便あるを以て出入の旅客甚だ多く、本州最北の都會たり。又此地の近傍より檜、松、杉等の良材を産出す。

青森より東方野邊地灣頭の野邊地及び下北半島の大湊は共に陸奥灣内の要津なり。此半島には焼山、恐山等の火山ありて多く硫黃を産出す。又野邊地より東南鐵道線路に沿ひ縣界に近く八戸あり。縣下南方の一名邑なり。

更に青森より西南に進めば弘前市あり。津輕氏の舊城地にして岩木川に臨み、人口三万一千を有し、第八師團の司令部あり、市況殷盛なり。此地津輕塗の産あり。縣内岩木山、八甲田山、赤倉岳等高峻なる山岳に富めるのみならず、十和田湖、周

圍十里小河原沼十三里餘等の湖沼あり

秋田縣

本縣は西方日本海に臨み男鹿半島突出し、東境には中央分水山脈に屬する諸山屏列し、南北亦山岳を以て閉され、域内は能代御物兩河の灌域を除くの外概ね山岳重疊せり。其管轄區域は羽後一市八郡秋田市、南秋田、北秋田、山本、及び陸中一郡にして、縣廳は秋田市に在り

角鹿にして、秋田市に在り。秋田市は御物川の沿岸に位し、佐竹氏の舊城地なり。人口二万七千餘を有し、畝織と稱する絹織物の産地にして、米穀の集散地たり。又著名なる秋田落も此地の産なり

秋田の西北御物川の河口なる土崎港は船舶の碇泊に便に

して縣下の要港たり。此地より北すれば八郎瀉の東岸に出づ。八郎瀉は周回十五里、本邦著名の大湖なり。此西に男鹿半島あり。此半島は風景の賞すべき所少なからず。更に北すれば能代塗の産地なる能代あり。此地は能代川の河口に位し、亦縣下の一名邑なり。是より東すれば曲物の産ある大館あり。此近傍に小坂、小眞木、及び尾猿澤の鑛山ありて鑛業甚だ盛んなり

又秋田より東南に進めば大曲を経て木綿の産出に名ある横手に到る。尙ほ南すれば縣界に近く院内あり。此近傍の院内銀山は本邦屈指の鑛山なり

山形縣

本縣は西方日本海に面し、他の三方は山岳を以て國境を爲し、域内に岩木火山脈に屬する山嶺群立し峻險なる地方多しと雖ども、最上川の灌域は一帶の沃野を爲せり。其管轄區域は羽前一圓山形市、米澤市、南村山、東村山、西村山、北村山、及最上、東田川、西田川、西置賜、東置賜、南置賜及海飽に在り。縣廳は山形市に在り。

山形市は舊時最上と稱し最上氏代々の居城せし處にて、歩兵第三十二聯隊の營所あり、人口三万一千を有し、市街繁盛なり。山形より北に進めば織田氏の舊城地なる天童を過ぎ、龜綾織を以て有名なる新庄に達すべし。又最上川に沿ひ西北に下れば同河口に酒田あり、此地は商業盛んにして船舶輻湊し縣下第一の要津なり。酒田の東南鶴岡ツルギ一名庄内は酒

井氏の舊城地ありし所にして、繪蠟燭の産あり、亦繁盛なる一都會なり。此近傍に羽前三山の稱ある羽黒山、月山、湯殿山ありて鼎足の勢を爲し屹立せり。又山形より南行すれば上ノ山を過ぎ、米澤市に達すべし。此地は上杉氏の舊城地にして、糸織と稱する絹織物及び蠶卵紙等の産出を以て著名なり、人口二万九千を有し、山間の一都會たり。

中央西部地方

中央西部地方は本州の西南に位し、西は中國地方に接し、東は中央東部地方に連なり、南北は海洋に面せり。其境域は畿内内の全部、北陸道の大部及び東海、東山、南海、山陽、山陰五道の

一部を包轄し、面積三千九百〇二方里、人口一千一百四十万餘を有す。今其國名及び府縣名を擧ぐれば左の如し

國名

三河 尾張 伊賀 伊勢 志摩 近江 美濃 飛騨 越中 加賀

能登 越前 若狹 山城 大和 河内 和泉 攝津 紀伊 淡路

播磨 丹波 丹後 但馬

府縣名

愛知 三重 岐阜 富山 石川 敦賀 滋賀 奈良 和歌山 京都

大阪 兵庫

地勢 中央西部地方は支那山系の内外兩帶山脈南北に分れ東走する地點にして、數條の火山脈其間に纏綴すれば、山岳各所に起伏し形勢稍や錯綜するものあるも、之を東部、中

部及び西部に大別するを得べし

東部の地勢は中央東部地方と粗々其形勢を同ふし、中央に濃飛高原あり、南方斜面は三尾の地にして、北方斜面は加越の地なり。域内に於て最も平坦なる地は木曾川の灌域にして、所謂尾濃平原是れなり

中部の地勢は紀伊半島、太平洋面に突出するを以て其幅員最も廣く、北方には中國山脈の餘波東走し、南方には外帶山脈に屬する諸山鬱結し、域内到處山岳起伏するもの多しと雖も、南北海岸地方及び琵琶湖の沿岸等所々に小平原を有せり其最も大なるものは所謂畿内平原にして、澱川及び大和川の灌域なる攝河泉の地方なり

西部の地勢は中央に中國山脈東西に走り、城内を南北二斜面に分割せり。南方斜面は瀬戸の内海に面し、加古川、揖保川の灌域にして、北方斜面は日本海に臨み、由良川、朝來川等の灌域なり。

産物 中央西部地方の産物は、農産第一にして、林産、鑛産等之に次ぐ。其一二を擧ぐれば、米は尾張、伊勢、近江、美濃、加賀、越中、河内、攝津、播磨に適し、麥は尾張、河内、和泉、攝津、但馬に出づ。茶は山城、丹波、近江、美濃、伊勢、加賀を最とし、養蠶は尾張、美濃、越中、三丹地方を推す。綿は尾張、三河、伊勢、河内、和泉、大和に多く、紙は美濃、但馬に産す。此他、但馬、攝津の牛は畜産の最たるものにして、但馬、越前の銀、加賀の銅は鑛産の主たるものなり。

り。又紀伊、大和の木材は本邦に於て著名なり。

交通 中央西部地方の交通路は、京都より近江、伊勢を経て南方に東走する東海道及び中央高地を東走する中山道あり。又攝津、播磨の沿岸に通ずるものは山陽街道にして、京都より丹波、但馬を経て西ずるものは山陰街道なり。此他北陸街道、紀伊街道等あり。鐵道線路は此域内に大阪、京都等の大都會あるを以て數多の線路あるも、其主なるものを擧ぐれば、東海道及び中山道に沿ふて敷設せる東海道、關西の兩鐵道、并に山陽街道に沿へる山陽鐵道、及び琵琶湖頭を北走し北陸道沿岸を通ずる北陸鐵道等あり。

愛知縣

本縣の東部三河の地は北境に木曾山脈を負ひ國內に丘陵起伏するも、中央以西は木曾川の灌域に屬し、濃飛平原の一部にして、地味甚だ膏腴なり。又渥美半島は西南に突出し、伊勢ノ海の門口を扼せり。其管轄區域は尾張名古屋、春日井、西春日井、丹羽、葉栗、中島、海東、海西、知多、三河碧海、幡豆、額田、西加茂、東加茂、八名、兩國にして、縣廳は名古屋市に在り。

名古屋市は東西兩京の要路に位し、東海道の樞軸を握るを以て、往時徳川氏は此地に親藩を置きしが、今や瀛車の中心點として、物貨の出入甚だ繁く、家屋櫛比し商業極めて殷賑なり。人口二十四万を有し、本邦第四の都會なり。市の北隅に名古屋城あり。其天主閣上有名なる金鯨あり。又此城内には

第三師團の司令部あり。此地七寶燒、扇子、織物、綿糸を産す。市の南端に接續して熱田あり。此地は草薙の劍を藏めたる官幣大社熱田神宮あるを以て、俗に宮と稱し、伊勢ノ海を航する船舶の發着點たるを以て、旅客常に群集せり。此地より東すれば木綿綯を以て名ある鳴海及び有松あり。此近傍より南方に突出する知多半島には、東岸に半田、武豐の二港あり。共に碇泊に便にして、半田は釀酒を以て著名なり。又其西岸には常滑燒を以て有名なる常滑あり。又有松より東海道に沿ひ東行すれば、矢矧川を渡り岡崎に出づ。此地は徳川家康の生地にして、今尙ほ商業繁盛なり。是より更に東して大平川及び豊川を渡れば、豊橋に達す。豊橋

は一に吉田と稱し、古來より著名の都會にして、第十七旅團の營所あり

本文に記する矢矧、大平、豊川の三河は、共に此國の大河にして、三河なる國名は之に起因せり

又名古屋の東北瀬戸町は陶器の出産地にして、西北清洲は織田信長の居城ありし地なり。本縣は織田、徳川兩氏の割據せし地なるを以て、歴史上著名なる古戰場多し。其一二を擧ぐれば、小牧は名古屋の北方にして、長湫は其東方に在り。又有松の近傍尾三の境上に桶狭間、豊橋の北方に長篠あり

三重縣

本縣は西方一帶紀伊山脈及び鈴鹿山脈連亘し、殊に伊賀の

地は山岳四周し、地勢頗る峻險なるも、伊勢ノ海に面する地

は低平にして地味豊饒なり。其管轄區域は伊勢津市、桑名、員

飯南、多氣、度會、伊賀、阿山、志摩、三國及び紀伊二郡

して、縣廳は津市に在り

津市は一名安濃津と稱し、伊勢の中央に位し、東方海岸に臨

めり、藤堂氏の舊城地にして、參宮鐵道此地を通過す、人口三

万を有し、緋子紗を産す。商業繁盛なり。此地より參宮鐵道に

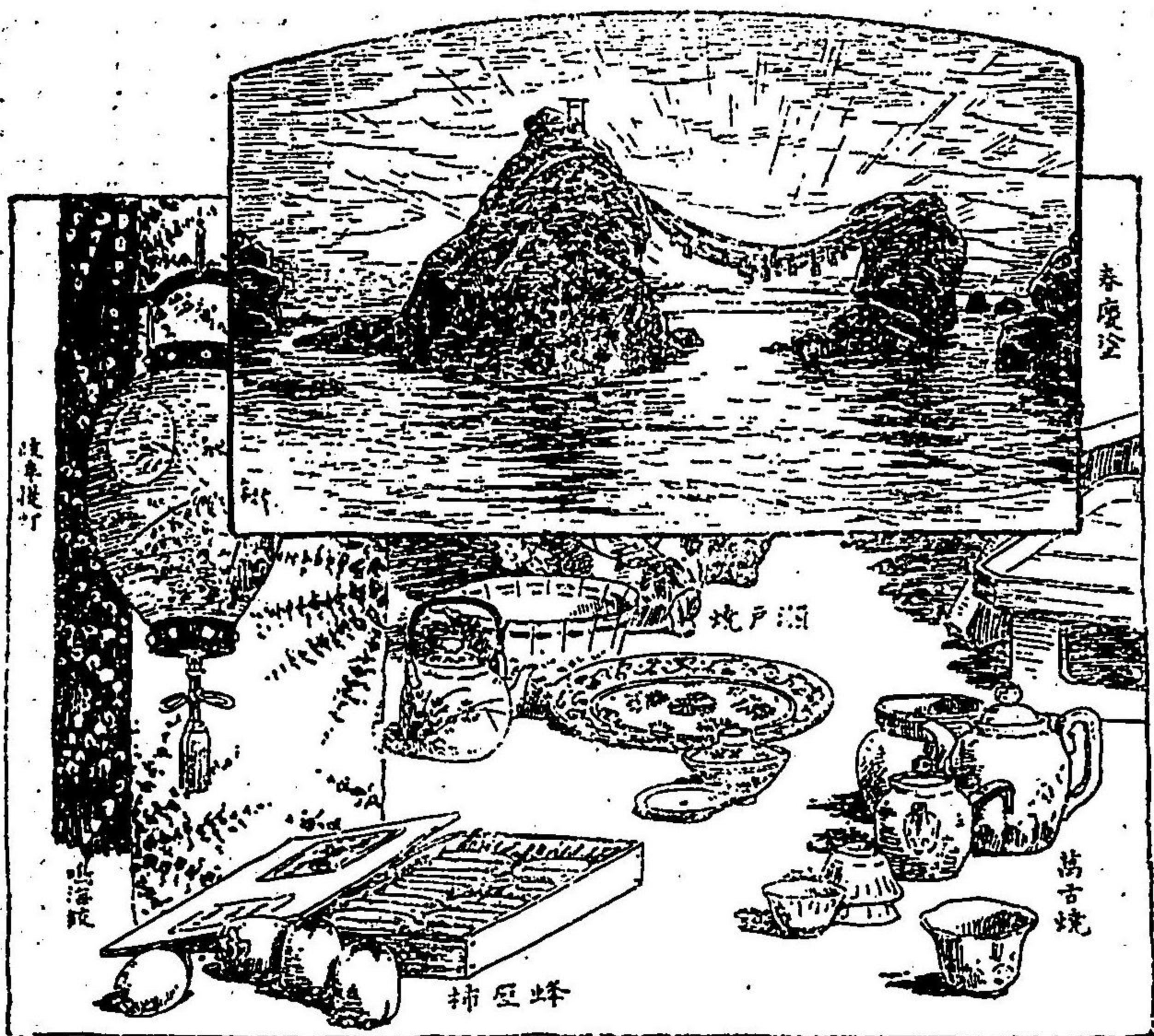
沿ひ南すれば、松坂縞の産ある松坂を過ぎ、櫛田川及び宮川

を渡れば、宇治山田に達すべし。此地には我國の宗廟たる内

宮、外宮を奉祠せるを以て參宮の旅客四時麁集す。此地の名

産は春慶塗及び御山杉の細工等なり

内宮は皇太神宮を奉祀し宇治に在り、外宮は豊受大神を奉祀し山田に在り。今日宇治山田と稱するは此二町を合せ稱せるものにして、人口二万六千を有せり。此二宮には宏大なる神苑あり、境内廣濶にして、老松古檜鬱然として繁茂せり。又内宮の東南なる丘陵を神路山と稱し、五十鈴川其麓を流れ、古來より神聖なる地を以て稱せられ、參宮者の巡拜する所なり。又此近



傍には朝熊山二見浦等の勝地あり

宇治山田より東して伊勢の境界を越ゆれば、志摩の鳥羽港に達す。此地は往古より有名なる良港にして、今尙ほ船舶輻湊せり

又津市より瀛車に乗じ北すれば龜山を経て四日市に到るべし。此地は特別輸出港の一に算せられ、船舶の往復頻繁にして、紡績、製紙の業盛んなり。又此近傍には萬古焼と稱する陶器を産す。四日市の北方揖斐川の河口に桑名あり。久松氏の舊城地にして、米穀の商業活潑なり。亦縣下北部の要津とす

轉じて伊賀の地に入れば上野町あり。東海道の一支部伊賀

越の要地にして、山間の一都會なり。其西南名張は大和の國界に近き一小市なり

岐阜縣

本縣は南方一帶木曾川の灌域に屬し廣漠なる低原を爲すも、東北、西の三方は所謂濃飛高原にして、山岳域内に重疊せり。殊に飛彈の地は峻險なる峯巒四周に蟠囑し、殆んど各國との交通を杜絶せり。其管轄區域は美濃岐阜市、稻葉、羽島、海津、養老、不破、安八、揖斐、本巢、山縣、郡上、武儀、加茂、可兒、土岐、惠那、飛彈大野、益田、吉城、兩國にして、縣廳は岐阜市に在り

岐阜市は稻葉山を負ひ、長良川に濱する一都會にして、東海道鐵道の一驛たり。人口三万を有し、縮緬、岐阜提灯、團扇等を

産す。此地より長良川及び揖斐川を渡りて西すれば大垣オホガキに到る。大垣は戸田氏の舊城地にして、繁盛なる一都會なり。此地の西北に大理石の産地なる赤坂あり。又其西南伊勢の國境多度山には有名なる養老の瀧あり。大垣より更に西して、温古ユルコ焼を産する垂井タリイを過ぐれば、關ヶ原セキガハラの古戰場あり。此西方近江の國境に不破關趾あり。其北方には艾アヲの産ある伊吹山を望むべし

又岐阜より東北に向ひ益田川タケタガハ一名飛彈川の沿岸を上れば高山タカヤマに達すべし。高山は飛彈の中央に位し、神通川シントウガハの上流なる宮川ミヤガハに臨み、紡績業盛んなり。此地は山岳四周を圍み、且つ海岸に遠きを以て、寒暑の差甚だ著るし。位山イイノは此地の南に

在り一位細工を以て有名なり

富山縣

本縣は北方日本海に面し、東南、西三方は數多の山岳連亘せるも、中央は神通、射水、常願寺、黒部等諸川の灌域にして土地平坦なり。其管轄區域は越中、富山、高岡、上新川、中新川、新婦負、射水、氷見、東礪波、西礪波、一國にして、縣廳は富山市に在り

富山市は神通川の沿岸に在りて、人口五万八千を有し、商業極めて繁盛なり。俗に小江戸の稱あり。古來より賣藥を製し、全國に行商す。又神通川には鮭及び鮎の産あるを以て、鹽鮭、干鮎に名あり。其北方神通川の河口に東岩瀨あり。富山市より物産を出すべき要津なり

富山市より海岸に沿ふて東北に進めば魚津の名邑あり。魚津の東南國境に近き立山は、古來有名なる休火山にして、山中に火坑多く、四十八地獄の稱あり。又富山より西すれば高岡市あり。同市は人口三万を有し、銅器、漆器を産し、有名の工業地にして、又商業盛大なり。此近傍の海岸に伏木港あり。同港は特別輸出港の一にして、船舶の出入多く、實に北陸の一要港たり。高岡より更に西すれば、加越の國境に源平戰役に於て有名なる俱利伽羅峠(礪波山)あり

石川縣

本縣は東南二方は山岳連亘して國境を爲し、西北は日本海に濱する沿岸にして地勢平坦なり。又其北方には能登半島

突出し寶達山脈蜿蜒し加越兩國の境を爲せり。其管轄區域は加賀美金澤市江沼能登鳳至珠洲鹿島兩國にして、縣廳は金澤市に在り

金澤市は犀川に臨み、前田氏の舊城地にして、人口八万二千を有す。北陸道第一の都會なり。第九師團司令部及び第四高等學校の所在地たり。九谷燒象眼細工絹織物の産あり。其西北の金石港は金澤市と相待て運輸の便を爲せり。又此市より南行すれば、北陸の名山と稱する白山に登るべし。金澤より東北に進み河北湖の東畔を過ぎ、能登の地に入れば、鐵道線路の終點に七尾港あり。七尾港は水深く大艦巨舶を繋ぐべき七尾灣に面し、特別輸出入港として著名なり。此

地には七尾酒の産あり。又此地の北方なる輪島は輪島塗と稱する精巧なる漆器を産す

更に金澤より西南に進めば加賀絹の名産地なる小松を経て、越前の境に近く、大聖寺の名邑に達すべし。此地の南方に温泉を以て名ある山中及び九谷燒の出産地なる九谷あり

福井縣

本縣は西方日本海に面し、他の三方は山岳を以て圍繞するも、九頭龍足羽日野三川の灌域及び沿岸地方は坦々たる平野を爲せり。其管轄區域は越前福井市南條今立丹生敦賀若狹三方遠敷兩國にして、縣廳は福井市に在り

福井市は足羽川に跨がり、人口四萬四千を有し、北陸鐵道の

線路に當り、機業の中心地として、市況甚だ殷富なり。羽二重及び奉書紬は最も著名なる物産なり。此地往昔柴田勝家の居城にして北ノ莊と稱せしが、徳川氏の治世に至り、其親藩たる松平氏の封ぜらるゝに及び、今の名に改稱せるなり。福井の北方牧ノ島に藤島神社ありて、南朝の忠臣新田義貞の靈を祀れり。又九頭龍河口の三國港は一名を坂井と稱し、此地方の一要津なり。此河を溯れば勝山及び大野の名邑あり。大野も亦奉書紬等の産あり。又福井より北陸鐵道に乗じ南すれば、第三十六聯隊の營所ある鯖江及び又物の産ある武生を経て、敦賀に達すべし。敦賀は敦賀灣に臨み船舶の出入多く、且つ鐵路の便ありて東

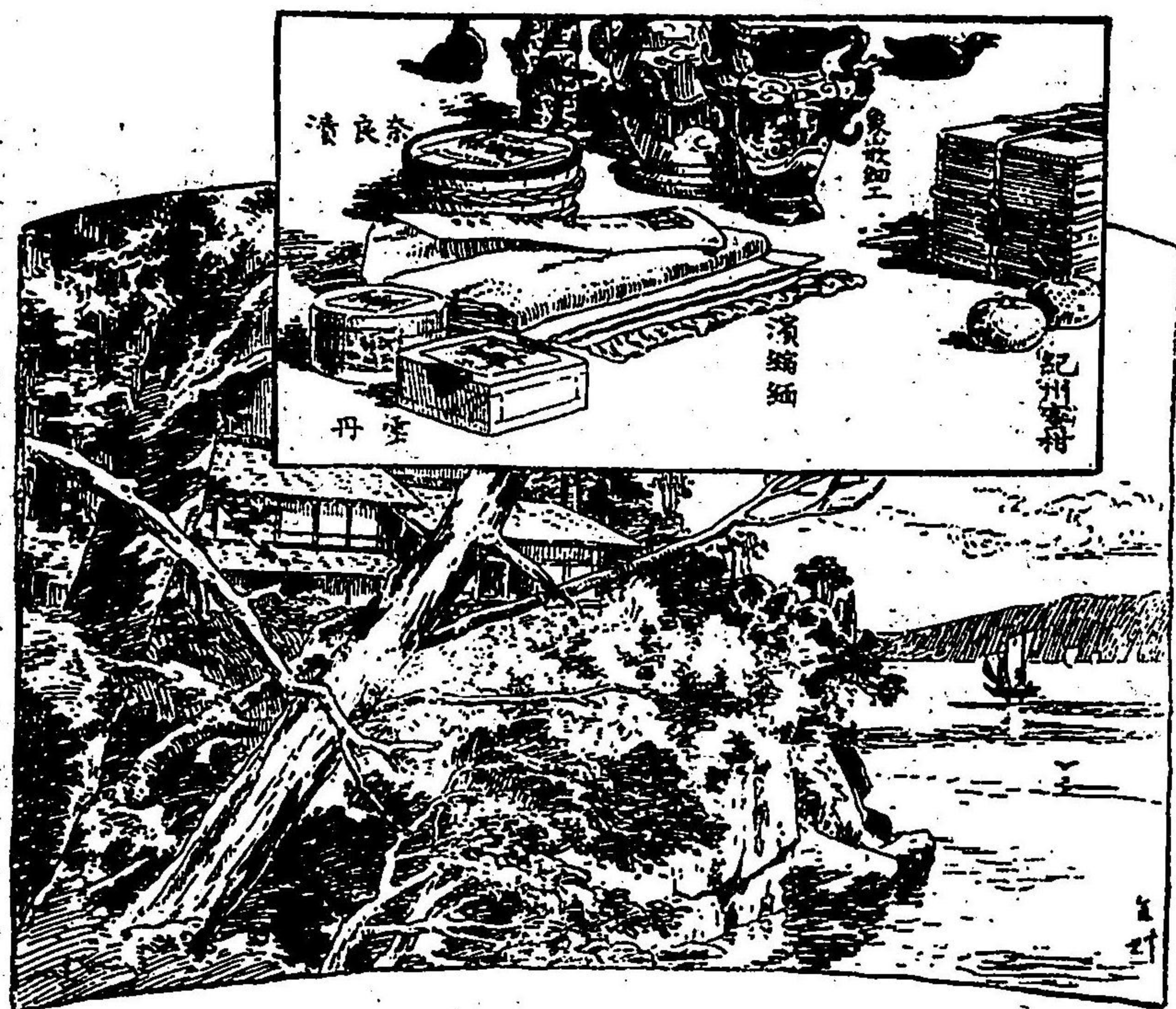
海道線に接続し、特別輸出港の一たり。實に北陸の一大要港なり。此地より更に西すれば小濱に到る。小濱は若狹の都會にして若狹塗の産あり。此地の近傍は海岸出入多くして山水の風景賞すべし。又頗ぶる魚族に富み若狹鯛若狹鰈の名世に高し

滋賀縣

本縣の周圍には中國山脈、鈴鹿山脈等重疊し、中央に琵琶湖ありて、地勢四方より湖畔に向て傾斜せり。其管轄區域は近江一圓大津市、滋賀、栗太、野洲、甲賀、蒲生、神市に在り

大津市は琵琶湖の西南岸に臨み、人口三万三千を有す。東海

道・鐵道・の線路に當り、湖上交通の漁船發着點として、商業活潑なり。近年開鑿せる湖水疏通の大溝渠は此地に在り。大津より東して草津に到れば鐵路は分岐して二となる。一は關西鐵道と稱し伊勢に入り、他は東海道鐵道にして湖東に沿ひ井伊氏の舊城地なる彦根を経て米原に到る。此地より北陸鐵道を分岐す。此線路に沿ひ北すれば縮緬の名産地なる長濱に到る。此地は湖岸の一要津にして、各地と漁船の交通頻繁なり。此地より北すれば織田信長の淺井朝倉兩氏と兵を交へたる古戰場なる姊川を渡り、柴田羽柴兩氏の古戰場にして、七本槍を以て有名なる賤ヶ岳の近傍を過ぎ、柳ヶ瀬に到り、福井縣の境界に達す。



竹生島の景

本縣の域内は本邦第一の琵琶湖あり。且つ其四周には比叡山、比良岳、三上山、伊吹山等の名山あり、山水の景具備せるを以て、古來より風景を以て稱せらる。

琵琶湖は一名鴉ノ海と稱す。周圍大約七十四里、湖中に竹生島、多景島、奥ノ島等あり。奥ノ島最も大にして、竹生島最も風景に富めり。此湖は往昔

孝靈帝の世、富士峯と共に一夜に生じたりと稱す。其傳説の眞偽は茫乎として今や遽かに判すべからざるも、共に本邦の双美として賞賛すべし。湖北大津の近傍に勝地多く、古昔より近江八景比良暮雪、堅田落鴈、三井晚鐘、勢田夕照、粟津晴嵐、唐崎夜雨、矢橋歸帆、石山秋月の名著るし。又此湖水は管に風光の明媚なるのみならず、涼船の往來頻繁にして、大に運輸の便を爲せり。殊に湖中に魚族多く、源五郎鮒の産あり。

奈良縣

本縣は南部一帯山岳鬱結し、峻險を極むるの地多きも、北部大和川の灌域は平坦にして、各種の農産に乏しからず。其管轄區域は大和一圓奈良市、添上、生駒、山邊、北葛城、南葛城、磯城、高市、宇陀、宇智、吉野にして、縣廳は奈良市に在り。

奈良市は縣の北部に位し、人口二万七千を有し、大阪、奈良兩

鐵道の要衝に當り、市街繁盛なり。此地は往昔元明帝より桓武帝に至る、七代、八十四年間の帝都たりしを以て、南都又平城と稱し、本邦古美術の淵叢たり。市の東方三笠山の麓に春日神社あり。此他東大寺の大佛、興福寺及び博物館等ありて、古代の珍品を藏するを以て、諸國より來觀するもの多し。又産物の主たるものは奈良晒、奈良漬、奈良人形、墨等とす。此地より東方伊賀の境上に月ヶ瀬の梅林あり。奈良より大阪鐵道に乗じ西すれば郡山の名邑あり。此近傍に法隆寺の古刹、及び紅葉を以て有名なる龍田あり。是より大和川の沿岸を走り、王子に至りて分岐し、本線は和泉、河内を経て大阪に達し、支線は西方に葛城山脈の諸山を望み、櫻

井に達す。櫻井の近傍には名勝故蹟多く、神武天皇の御陵、檀原神宮、談山神社、當麻寺、長谷寺等あり。更に南して吉野川の沿岸に到れば吉野山あり。此地は後醍醐天皇の行宮を營み給ひし處にして、古來より櫻花を以て著名なり。山中には吉野宮、如意輪寺等ありて、古蹟名勝に乏しからず。吉野葛、吉野紙、吉野漆の産あり。是より南方には山上ヶ嶽(大峯)、彌山、釋迦ヶ岳等の諸山ありて、山岳鬱結し交通不便なるも、十津川を利用して良材を出せり。

本縣の管域は往古神武天皇の大鼎を奠め給ひし以來、歴代各所に宮闕を設けられしを以て、故蹟名勝の探ぐるべきもの多ければ、大和廻りと稱し、世人の此地に遊ぶもの常に絶

ゆることなし

和歌山縣

本縣は紀伊山脈の諸山弧狀を爲して北境に鬱結し、其支脈域内に重疊せるを以て、地勢甚だ高峻なるも、紀ノ川(吉野川)の灌域の如きは一帶の沃野を爲せり。其管轄區域は紀伊の一市七郡和歌山市、海草郡、伊都郡、有田郡、日高郡、西牟婁郡、東牟婁郡にして、縣廳は和歌山市に在り。

和歌山市は紀ノ川の河口に位し、人口五万七千を有せり。此地徳川氏の治世に於て南方の雄鎮として、其親藩を置きし地にして、水陸交通の便を有し、貨物輻輳の一要區なり。綿フランネルは本市の特産として著名なり。

和歌山市の南方和歌の浦は往古より風光明媚なるを以て著名なり。又市の西北加太の近傍田倉岬は淡路の生石崎と相對し、由良海峽(紀淡海峽)を爲し、大阪灣口を扼する要地なるを以て、堅牢なる砲臺の設あり。是より更に轉じて紀ノ川に沿ひ遡れば、粉川寺ある粉川を経て、高野山の北麓に到るべし。高野山には眞言宗の總本山たる金剛峯寺の巨刹あり。此地高野豆腐の名産あり。又此山中には扁柏、杉、金松等の山林ありて、木材の産に豊かなり。又和歌山より沿岸に沿へ南行し、紀州密柑の名産ある有田川を渡り、湯淺、御坊等の名邑を経て、日高川を渡り、東南に進めば田邊港に達すべし。此地より更に東南行し、串本に到れ

ば、近傍に潮岬あり。是れ本州の最南端なり。此地より轉じて東北に進めば本縣第二の都會なる新宮あり。新宮は熊野川に臨み、紀和兩國より産する薪炭、木材の集散地たり。此近傍一帯の海洋を熊野洋と稱す。風濤荒きを以て有名なり。又熊野川を遡れば大和の國境に近く本宮あり。本宮、新宮、及び田邊の間に那智山、大塔峯、大雲取等の諸山ありて、地勢峻險を極め、風景絶佳なる所あり。又有名なる那智の瀧は那智山の半腹に懸り、直下八十丈、熊野洋中より望むべく、海内無二の壯觀なり。

京都府

本府の域内は中國山脈に屬する諸山重疊し、南方は畿内平

原の一部を爲せり。又西北丹後の地は日本海に瀕し良港灣に富めり。其管轄區域は山城京都市、愛宕、葛野、乙訓、紀伊、宇治、久世、綴喜、相樂丹後加代與中、竹野熊野兩國及び丹波五郡南桑田、北桑田、何鹿、船井、天田にして、府廳は京都市に在り

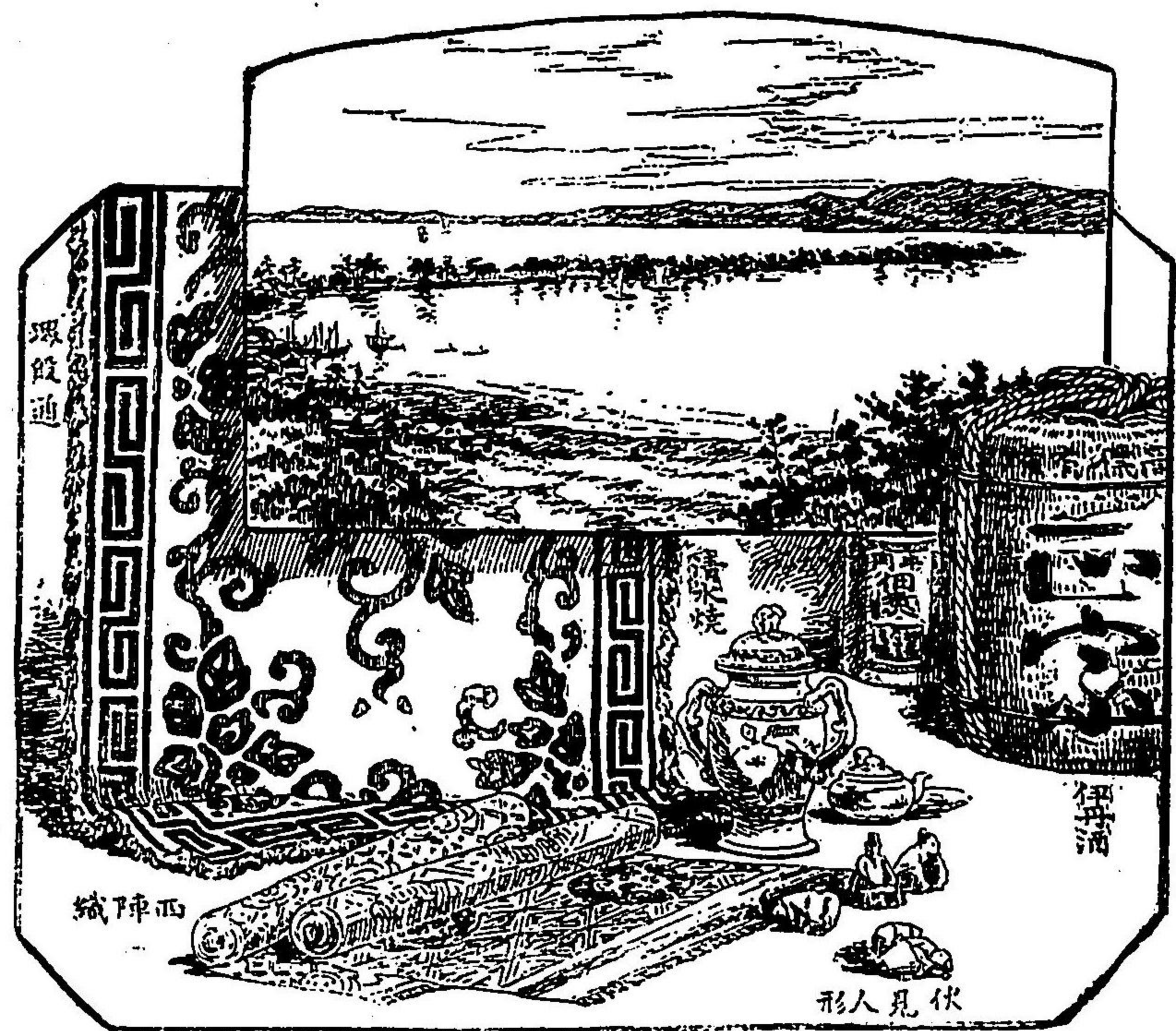
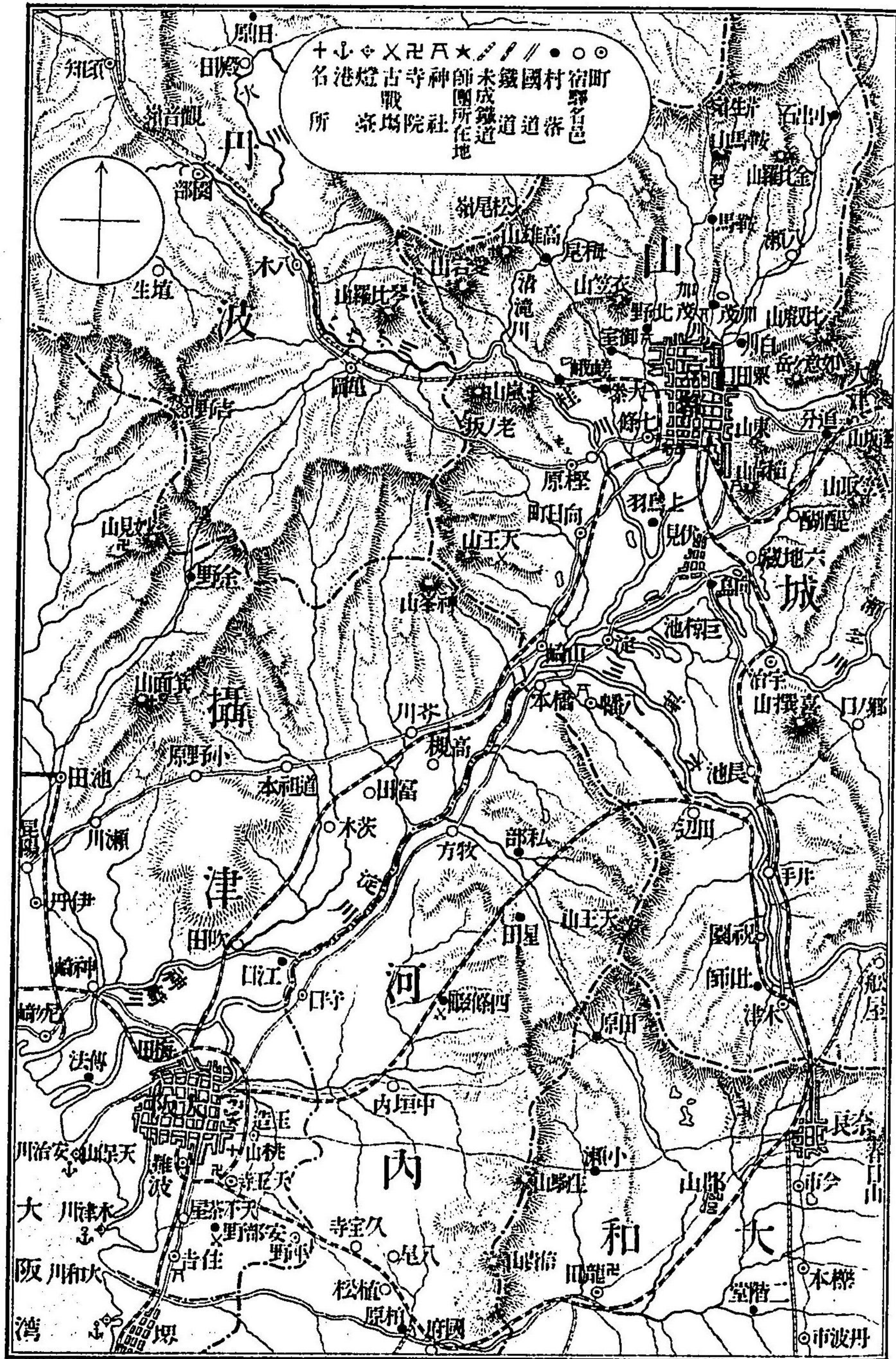
京都市は三府の一にして、山城の中央に位し、南方は宇治川の灌域にして、畿内平原の一部を爲し、他の三面は皆山巒を以て圍まれ、自然の城郭を爲せり。市の廣袤は南北約一里半、東西約一里。街衢は七條の大路を通じ、無數の小路其間に縦横し、井然碁局の如し。人口三十三万二千を有し、京都大學、第三高等學校、博物館等あり。有名なる加茂川は市の東部を流れたり。往昔は此川より以西を洛中と云ひ、以東を洛外と稱

したりしが、今は三條通を以て市を二分し、是より以北を上京とし、以南を下京とす。皇居は上京に在りて、二條の離宮は其西に在り。此地は桓武天皇延暦十三年、皇居を此地に奠め、平安城と稱へ給ひしより、明治初年に至る、千七十六年間の帝都なるを以て、人情自ら溫雅にして、風俗亦優美なり。故に美術工藝に巧緻にして、且つ閑雅なるは他國の企て及ばざる所なり。西陣織、友禪染、鹿子絞、清水焼等著名なる手工品の産甚だ多し。又本市の内外には勝地舊蹟頗ぶる多く、平安神宮、加茂神社、北野天神、豐國神社、金閣寺、銀閣寺、知恩院、南禪寺、東福寺、東西本願寺、泉涌寺、清水觀音等の社寺あり。其他春は嵐山に櫻花を賞すべく、秋は高雄に紅葉を愛すべく、四時探

るべき勝地多きを以て、内外の遊客群集し、轉た往事を追慕せしむ。又此地の陸路は東京、大阪、奈良、及び丹波地方に通ずる鐵道あり。水路は澱川を往復する小汽船ありて、運輸の便に資し、且つ琵琶湖疏水の水力を利用し、諸種の工藝生産の力を増進する等、着々地歩を進むるに勉めたれば、今日尙ほ往年の繁盛を維持し、本邦第三の都會たる實を失はず。京都の南方澱川の沿岸に伏見あり。此の地に第十九旅團の司令部あり。其の東北桃山には豊太閤の城趾あり。伏見より澱川を渡れば製茶を以て有名なる宇治あり。此地の平等院は源頼政の自刃せし所なり。是より更に歩を轉じて木津川澱川の支流にして伊賀より來る河流なりを溯れば大和の

境に近く笠置山あり

又京都より東北に進めば近江の國境には比叡山あり。此山上の延曆寺は天台宗の本山にして、有名なる巨刹なり。此山と鞍馬山及び愛宕山とは京都の北郊に位する三大山なり。更に又京都より西行し嵐山の麓を流る、桂川の沿岸を溯り、丹波に入れば龜岡の名邑あり。此地より園部、綾部を経て、地方の一都會なる福知山に達す。此地に第二十旅團の司令部あり。福知山より由良川に沿ひ大江山を西方に望み北行すれば、丹後の舞鶴港に到るべし。本港は水深く波平かにして巨艦を容るゝに足るを以て、第四海軍鎮守府の所在地と定められ、現時港内の修築中なり。此地の西北宮津港は宮津



天の橋の立

灣一名與謝ノ海頭に
 位し特別輸出港の一
 にして丹後第一の都
 會なり
 此地の西北岸より一
 條の砂洲海中に延び
 翠松其上に連なり潮
 水を鏡とし姿容を装
 へり遠く之を望めば
 長橋を波上に架する
 が如し之を日本三景

の一なる天の橋立とす。是より海岸を北し、經ヶ岬より西向すれば、丹後・縮緬の産地なる峯山に到るべし。

大阪府

本府は北は中國山脈の一部に接し、東南は葛城、和泉の二山脈を以て圍まれ、西方一帯大阪灣に面し、其中央は澱川及び大和川の灌域にして、渺茫たる平野を形成し、田園遠く連なり、人烟稠密なり。所謂畿内平原の地是なり。其管轄區域は攝津の一市四郡大阪市、西成、東成、三島、豊能、河内南河内、中河内、北河内、和泉堺市、泉北、泉南の兩國にして、府廳は大阪市に在り。

大阪市は大阪灣頭、澱河口に位し、人口七十五萬を有し、我國第二の大都會にして、又普通貿易港の一なり。市の幅員東西

約一里半、南北約二里、東西南北の四區に分ち、街衢整然たり。而して其間には溝渠を縦横に疏通し、數多の橋梁を架せり。俗に八百八橋の稱あり。此地は關東、關西交通の要衝に當り、且關西の物産を集散する大中心たるを以て、陸には東京、神戸間の官設鐵道、和泉より和歌山に通ずる南海鐵道、奈良、櫻井に達する大阪鐵道、河内に通ずる浪速鐵道等、其他二三の線路あり。海には安治河口に帆檣林立し、漁船の往復は關西諸港の間に頻繁なり。實に本市は東京と相對して、關西商業の樞機を握れり。且つ工業も大に發達し、日に益繁榮を加へ、他日東洋の大工業地たるの形勢を顯はせり。市の物産は銅鐵器、燐寸、綿絲、抄紙、其他日用諸雜品等なり。又其輸出品は海

産物、綿糸、綿布、燐寸、釀酒等にして、輸入品は、米、豆、棉花、砂糖等なり

此地は往昔難波津と稱し、仁德帝の宮居を奠め給ひし地にして、高き屋に登りての御製ありし所なり。其の後千有餘年の星霜を経て、豊臣氏此地に城を築きしより、繁華なる市場となり、遂に今日に至りたり。市の東方の大阪城は其構造の堅固なる本邦第一と稱せらる。今日存するものは僅に其牙城のみにして、其内には第四師團の司令部あり。其他市内に砲兵工廠、造幣局、控訴院等あり。又市の内外には四天王寺、天滿天神、高津宮、生國魂神社、豊國神社等の大社、巨剎、茶臼山、眞田山等の古戰場あり

大阪より鐵路に乗じ南すれば、北畠顯家を祭れる安倍野神社を東方に望み、有名なる住吉神社ある住吉を過ぎ、大和川を渡れば堺市あり。堺市は往昔の貿易港にして、人口五万を有し、双物及び堺段通の産を以て名あり。市内の巨剎妙國寺は大なる蘇鐵あるを以て有名なり。其西南岸和田は煉化の製出盛んなり。更に轉じて河内に入れば大阪京都間の街道に當り。守口、牧方等の名邑あり。又其國境には金剛、葛城、志貴、生駒等の諸山あり。金剛山の山腹には史上に有名なる千早の城趾あり。四條畷の古戰場も亦國の中央、大阪の東北に在りて小楠公を祭れる四條畷神社あり。此他大阪京都間の鐵道に沿ひ茨木、高槻の名邑あり。大阪の西北には尼ヶ崎の名

邑及び釀酒を以て著名なる池田、伊丹あり

兵庫縣

本縣は南方攝津、播磨の地は大阪灣及び播磨洋に面し、北方但馬の地は日本海に臨み、其中央に中國山脈に屬する諸山鬱結するを以て、地勢峻險にして、河川皆南北に分流するも、其灌域及び海岸の地は平野を爲せり。又淡路は丘陵所々に起伏するも亦平坦なる地域あり。其管轄區域は攝津の一市三郡神戸市、川邊、丹波の二郡氷上、及び但馬出石、城崎、養父、朝來、美方播磨姫路市、明石、美彌加東、加西、多可、加古、淡路津名、の三國にして、印南、飾磨、神崎、揖保、赤穂、佐用、宍粟縣廳は神戸市に在り

神戸市は攝津の西部に位し、北は山を負ひ、南は海に瀕し、普

通貿易港の一にして、人口十九万三千を有す。港灣廣潤にして船舶の出入繁く、外國貿易の盛んなる横濱の右に出づると云ふ。其輸出品の主なるものは米、茶、燐寸、石炭、銅、樟腦、海産物等にして、輸入品の主なるものは棉花、綿糸、毛布、砂糖、石油、豆等なり。此地は元弘史上に有名なる湊川を狭みて、神戸、兵庫の二港に分れたりしが、今は合して一市となれり。湊川の東方に楠公を祀れる湊川神社あり。彼の水戸黄門の建造せし楠公の碑は此境内に在り。又此近郊には生田森の古跡及び布引瀧の名勝あり

神戸の東方大阪に到るの鐵道線路には西ノ宮の名邑あり、此近傍の地を灘地方と稱し、本邦第一の清酒出產地たり。西

ノ宮の西北には武庫、摩耶の諸山あり。此諸山の背後には著名ある有馬の温泉あり。此地より更に北すれば、三田を経て、

丹波の篠山より、柏原に達すべし

又神戸より山陽鐵道に沿ひ、須摩浦を過ぎ、鐵柎峯、嶋越等源

平古戦場の傍を経て、舞子濱に達す。此沿岸は白砂青松相映

じ、白帆風を孕んで駛走する邊淡路島を望み、風光の絶佳なる古來世人の稱賛する地なり。是より進みて西行すれば、明石縮及び帆木綿を以て名ある明石あり。尙ほ進んで加古川を渡れば、姫路市に達す。此地には往昔羽柴秀吉の築きし名城ありて、白鷺城の名あり。中國の要樞に當れるを以て、徳川氏の治世には其腹心たる酒井氏の城地たり。人口三万一千

を有し。高砂・染・革・細工等の産ありて市況頗る繁盛なり。本市の南方海岸に飾磨の津あり。姫路と相待て播磨の要津たり。又姫路より西行し書寫山を北に望み、揖保川を渡れば醬油の産ある龍野を過ぎ、兒島高德を以て有名なる舟坂山に達すべし。此地の東北に赤松氏の古城趾なる白旗山、又其東南に製鹽を以て名ある赤穂あり。更に轉じて姫路より播但鐵道に乗じ北行すれば、但馬の境に入り生野銀山あり。生野より尙ほ北に進めば山陰街道に達すべし。此邊に出石・燒の産ある出石及び豊岡あり。此近傍に柳行李等の産あり。其北方海岸に近く城崎あり。温泉を以て著名なり。又明石より海を渡れば淡路の岩屋に到るべし。岩屋より南

すれば東海岸に洲本あり。此地は島中の都會にして大阪及び神戸に漁船の往來あり。其南方由良は紀淡海峽、由良海峽を扼する要地にして、近時砲臺の設備あり。又西南岸なる福良は四國に渡る要津にして、鳴門海峽を隔て、阿波の撫養港と相對す。此近傍に眠平・燒の産あり。

中國四國地方

中國四國地方は本州の最西部と四國島より成り、北は日本海に臨み、南は太平洋に面し、其中央に瀬戸ノ内海を擁せり。其疆域は山陰・山陽・南海・三道の大部を包含し、面積三千五百四方里、人口七百五十五万四千餘を有す。今其國名及び府縣名を擧ぐれば左の如し。

國名

因幡 伯耆 出雲 石見 隱岐 美作 備前 備中 備後 安藝
周防 長門 伊豫 讃岐 阿波 土佐

府縣名

鳥取縣 島根縣 岡山縣 廣島縣 山口縣 愛媛縣 香川縣 德島縣
高知縣

地勢[◎] 中國四國地方は支那山系の内外兩山系及び阿蘇白山二火山脈の貫通する地點にして、數多の山岳起伏するも、概して高峻ならず。之を中國、四國の二地方に區別するを得べし

中國地方は其中央を東西に中國山脈連亘し、地域を南北二斜面に分割せり。南斜面は山陽道地方にして、瀬戸内海に向て傾むき、海岸及び河岸に數多の平地を有し、北斜面は山陰道地方にして、日本海に向て傾むくも、域内に白山火山脈の一部あるを以て、概して山岳多く平地少なきを以て、農産に饒かならず

四國地方も亦九州南部山脈の一端、伊豫の佐田岬より入り、四國山脈となり、其中央を東方に向て連亘し、中途にて二派に分れ、一派は阿波に入り、一派は阿讃の境界を爲せり。故に其地域は土佐灣に向へる南斜面、瀬戸内海に面する北斜面及び吉野川、那賀川の流域たる東斜面の三部に區別すべし。産物[◎] 中國、四國地方にては各地米、麥の産なきにあらざるも、米は備前を推し、麥は阿波、讃岐、伊豫を可とす。茶は美作、周

防長門阿波讃岐に出し、綿は備前備中伯耆に産す。藍は阿波を以て本邦第一とし、備後安藝にも多く、煙草は阿波備中美作を稱す。製糖の業は讃岐に盛んにして、製紙は土佐を最とす。此他瀬戸内海の沿岸地方に産する製鹽の如きは實に天賜の富源にして、他の地方に其比を見ず。又伊豫の銅は鑛産の主たるものにして、中國地方の各地に砂鐵の産あり。

交通 中國は中央西部地方と連絡せる山陽街道及び山陰街道あり。四國には沿海を一週する街道及び中央を南北に貫通する街道等あり。鐵道線路は山陽街道に沿へる山陽鐵道を其主なるものとし、讃岐鐵道伊豫鐵道等の小線路あり。

鳥取縣

本縣は東西に狹長にして、南方中國山脈及び白山火山脈に屬する山岳重疊するも、日野千代兩川の灌域及び日本海沿岸は概ね平坦なり。其管轄區域は因幡鳥取市、岩美、西伯、八頭、氣高、伯耆東伯、西伯兩國にして、縣廳は鳥取市に在り。

鳥取市は池田氏の舊城地にして、人口二万八千を有し、歩兵第四十聯隊の營所あり。市況繁盛なり。其西北加露港は本市に屬する要津なり。

鳥取より山陽街道を西し、伯耆の地に入り、東郷湖の近傍を過ぐれば、天神川に出づ。此川の上流には木綿飛白を産する倉吉あり。更に進んで西行すれば、元弘史上に有名なる御來屋を過ぎ、淀江に達すべし。此近傍に名和長年を祀れる名和

神社あり。又淀江の西南なる船上山は名和氏が御醍醐天皇を奉じたる所にして、其西南なる大山は中國第一の高山なり。淀江より更に西すれば日野川を渡り、米子に達すべし。此地は山陰、山陽兩街道の連絡地に當り、繁華なる要津なり。此地の近傍より西北に突出せる夜見ヶ濱の北端には特別輸出港の一たる境港あり。同港は隱岐島に渡航すべき要津なり。

島根縣

本縣は東北より西南に延び、南境に中國山脈蟠屈し、北方は日本海に面せり。又隱岐島は遠く北方の海中に群がれる群島なり。其管轄區域は出雲松江市、八束、能義、仁石、見瀬、摩、安濃、多、大原、簸川、飯石、邑智、那賀

美濃、及び隱岐周吉、穩地、知夫、海士の三國にして、縣廳は松江市に在り

松江市は宍道湖と中ノ海を結合する大橋川に跨がり、人口三万四千を有し、山陰第一の大都會なり

中の海は島根半島と伯耆の夜見ヶ濱とに依りて包まる、半鹹半淡の大湖にして、周回十六里あり。章魚、鯖、鰻等の魚族を産す。又宍道湖は中の海より稍や小にして、湖中に鱈の産あり。其味頗ぶる美にして、清國松江の産に等しと稱す

此地より宍道湖の南岸に沿へ西すれば簸の川を渡り、瑠璃の産ある玉造に達すべし。此川の上流なる船通山は神代の古蹟簸の川上なり。又神門川の下流なる杵築には大己貴命を崇祀せる大社あり。此近傍の地は總て簸ノ川の灌域に屬